

平成30年度 東京海洋大学修学支援調査

調査結果報告書

◆調査実施期間
平成30年4月～6月

◆有効回答件数
1867件

国立大学法人 東京海洋大学

目次

- ま え が き
- 調査結果についてのご説明

I 基本的事項について

1-1. 回答者の所属学科、課程または専攻	1
1-2. 回答者の学年	2
1-3. 回答者の性別	2
1-4. 回答者の入学年度	2
1-5. 外国人留学生であるか	3

II. 入学について

2-1. 東京海洋大学へ入学することをどの程度希望していたか	3
2-2. 合格した選抜方法	4
2-3. 東京海洋大学に入学した動機	5
2-4. 学部卒業後の大学院への進学希望又は就職希望について	5~6
2-5. 本学学部から大学院へ進学した理由及び進学して良かった点、悪かった点	5
2-6. 留学生が本学大学院へ進学した理由及び進学して良かった点、悪かった点	6

III. 修学関係について

3-1. 大学の教育に満足しているか	6
(SQ) 大学の教育に不満な理由	6
3-2. 大学の研究指導への満足度	7
(SQ) 大学の研究指導に不満な理由	7
3-3. 週に何コマ授業を取っているか	7
3-4. 現在の取得単位数	8~10
①全体	8
②学部2年	8
③学部3年	8
④学部4年	9
⑤博士前期課程2年	9
⑥博士後期課程2年	9
⑦博士後期課程3年	10
3-5. 昨年度のGPA	10
3-6. 授業にどれくらい出席しているか、あるいは出席していたか	10
3-7. 授業に欠席する理由	11
3-8. 1日に平均何時間くらい学習やレポート作成等をしているか	11~12
①授業の予習・復習	11
②課題やレポート作成	12
③大学の授業と関係のない学習	12
3-9. 授業内容が理解できなかった場合どのようにしているか	13
3-10. 授業以外の勉強をどこで行っているか	13
3-11. 学内で学習する場として必要な条件	13
3-12. 教育課程方針に基き成績評価基準が定められていることを知った経緯	14
3-13. 学位授与方針に基き卒業・修了要件、評価の基準が定められていること知った経緯	14
3-14. 東京海洋大学の学位授与方針が、入学後現在までに身についたと思うか	15

IV. 学生生活について

4-1. 全体として本学における学生生活に満足しているか	15
4-2. 学生生活における大学の対応や支援についての満足度	16
4-3. 大学で、授業以外の時間はどこにいるか	16
4-4. 週平均何回大学に来ているか	17
4-5. 大学の窓口対応について	17
4-6. 大学での友人関係は良いと思うか	17
4-7. 自分の1日の生活リズムは規則正しいと思うか	18
4-8. 現在の大学生活で何を最も大切にしているか	18
4-9. 持っている通信機器	19
4-10. 通信機器（スマートフォンなど）をメールやインターネットで使用する1日の平均時間	19
4-11. 通信機器（スマートフォンなど）の使用目的	19
4-12. 大学からの情報を主にどこから得ているか	20

V. 通学・居住について

5-1. 通学に利用している交通機関	20
5-2. 片道の通学時間	21
5-3. 回答者が現在住んでいる住居の区分	21
5-4. 家族と連絡をとる頻度	22
5-5. 賃料から考えての住居の住み心地	22
(SQ) 住居に不満を感じている点	22
5-6. 学生寮についてどう思うか	23
5-7. 学生寮を希望しない理由	23

VI. アルバイトについて

6-1. 過去1年間にアルバイトをしたか	23
6-2. アルバイトの種類	23
6-3. 1週間のアルバイト従事時間（往復の時間を含む）	24
6-4. どこでアルバイトの紹介を受けたか	24

VII. 健康・悩みなどについて

7-1. 自分の健康状況についてどのように認識しているか	25
7-2. 健康のために心がけていること	25
7-3. 現在悩みや不安を抱えているか、また抱えているとすれば、どのような悩みか	26
7-4. 悩みや不安が生じたとき、相談相手がいるか	26
7-5. 制度の利用状況について	27
7-6. 大学で加入を義務づけている保険以外に、加入している保険	27

VIII. 大学の経済支援について

8-1. 大学で実施している「授業料免除」に申請したことがあるか	28
8-2. どのような経済支援を望むか	28
8-3. 「東京海洋大学経済支援給付制度」に申請したことがあるか	29
8-4. 「東京海洋大学経済支援給付制度」は必要だと思うか	29
8-5. 「東京海洋大学学業優秀学生奨学金」は必要だと思うか	29
8-6. 日本学生支援機構または他の団体から奨学金を受けているか	30
8-7. 受けている奨学金	30
8-8. 奨学金の月額	30

IX. 課外活動について

9-1. どのような課外活動団体に所属しているか	31
9-2. サークル等加入の理由・動機	31
9-3. サークル等の1週間あたりの活動時間	32
9-4. サークル等に加入していない理由	32

X. 進路・就職について

10-1. 卒業後どのような進路を希望するか	33
10-2. 将来どのような業種への就職を希望するか	34
10-3. 就職先を選ぶ場合、何を重視するか	35
10-4. 希望する進路をかなえるためにしていること	35
10-5. 就職担当窓口を利用しているか、また、そこからの情報提供は十分なものか	36
10-6. 大学外で資格取得等のために学校に通ったことがあるか（ダブルスクール）	36

XI. 大学への要望について

11-1. 大学にどのような要望や意見があるか	36
11-2. 大学の教員に対して望むこと	37
11-3. 大学の授業に対してどのような要望や意見があるか	37

ま え が き

東京海洋大学修学支援調査は、アンケートにより本学学生の皆さんの学習、生活、居住環境、課外活動等の状況や大学への要望を把握し、修学環境や学生支援の充実および改善に役立てるための取り組みを構築する上での重要な情報を収集することを目的としています。体系的に調査データを蓄積し、分析することにより、学生や大学が抱える問題を明らかにし大学側の対応策を考えることが可能になります。

3年ごとに修学支援調査を行っておりますが、今回は日本語版の他に英語版のアンケート用紙を作成し、留学生の状況や要望などを正しく把握することに努めました。多くの学生諸君の協力で、学生生活の様々な場面での実態や現状を把握する上での貴重な情報を得ることが、自由記述形式の回答からは本学に対する要望や意見を具体的に知ることができました。

この報告書では、個人情報の取り扱いに配慮し、調査結果をグラフ形式での整理、質問項目ごとの分析結果を示しています。学生ひとりひとりが充実したキャンパスライフを実感できるように、この調査報告を役立てていただければと願っております。

今回の調査実施にあたり、調査を担当された学生支援委員会学生広報・修学支援調査小員会の委員ならびに学務部の事務担当者、ご協力をいただいた先生方、調査の趣旨を理解して回答に協力してくれた学生諸君など、関係者のご協力とご尽力に心から感謝いたします。

平成31年1月

学生支援委員会委員長

理事・副学長（教育・学生支援担当） 稲石 正明

調査結果についての説明

例① 件数・構成比とグラフ



例② 件数・構成比と加重得点

	件数	(5点) そう思う	(4点) ややそう思う	(3点) どちらでもない	(2点) あまりそう思わない	(1点) そう思わない	無回答	(加重平均点)
① 海洋に対する科学的認識を深化させ、自然環境の望ましい活用方策を提示し、実践する能力	1867 100.0	366 19.6	689 36.9	424 22.7	200 10.7	122 6.5	66 3.5	3.54
② 論理的思考力、適切な判断力、社会に対する責任感を持って行動する能力	1867 100.0	366 19.6	720 38.6	492 26.4	141 7.6	79 4.2	69 3.7	3.64
③ 現代社会の大局化した諸課題について理解・認識し、対応できる実践的指導力	1867 100.0	266 14.2	573 30.7	612 32.8	242 13.0	104 5.6	70 3.7	3.36
④ 豊かな人間性、幅広い教養、深い専門的知識・技術による課題探究、問題解決能力	1867 100.0	370 19.8	714 38.2	484 25.9	144 7.7	87 4.7	68 3.6	3.63
⑤ 国際交流の基盤となる幅広い視野・能力と文化的素養	1867 100.0	282 15.1	539 28.9	559 29.9	254 13.6	164 8.8	69 3.7	3.29

各項目を得点化し、平均点を算出

上段：件数
下段：構成比 (%)

件数の最も多い箇所を着色

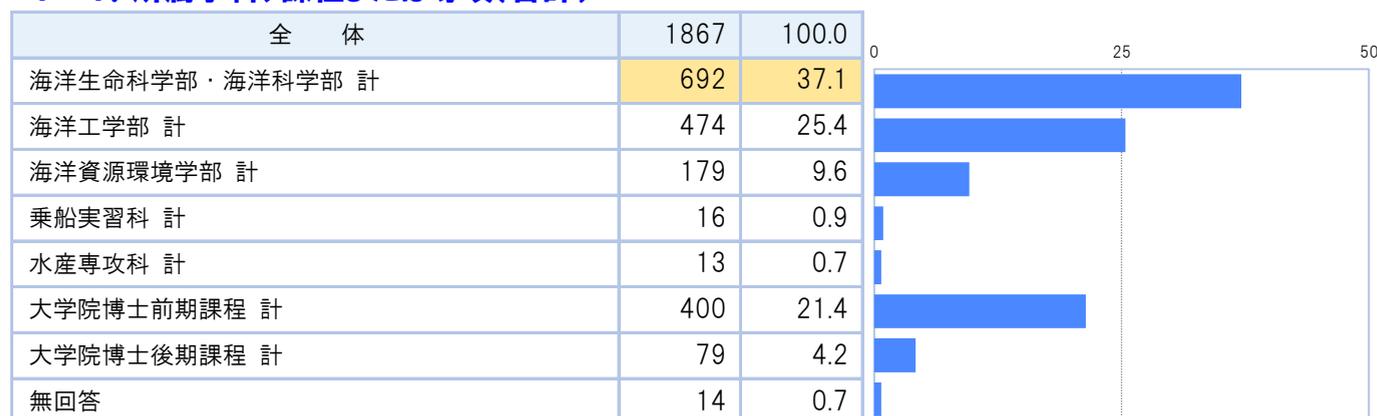
I. 基本的な事項について

1-1. 回答者の所属学科、課程または専攻

「食品生産科学科」が219件(11.7%)、「海洋生物資源学科」が212件(11.4%)、「海洋電子機械工学科」が187件(10.0%)の順となっている。

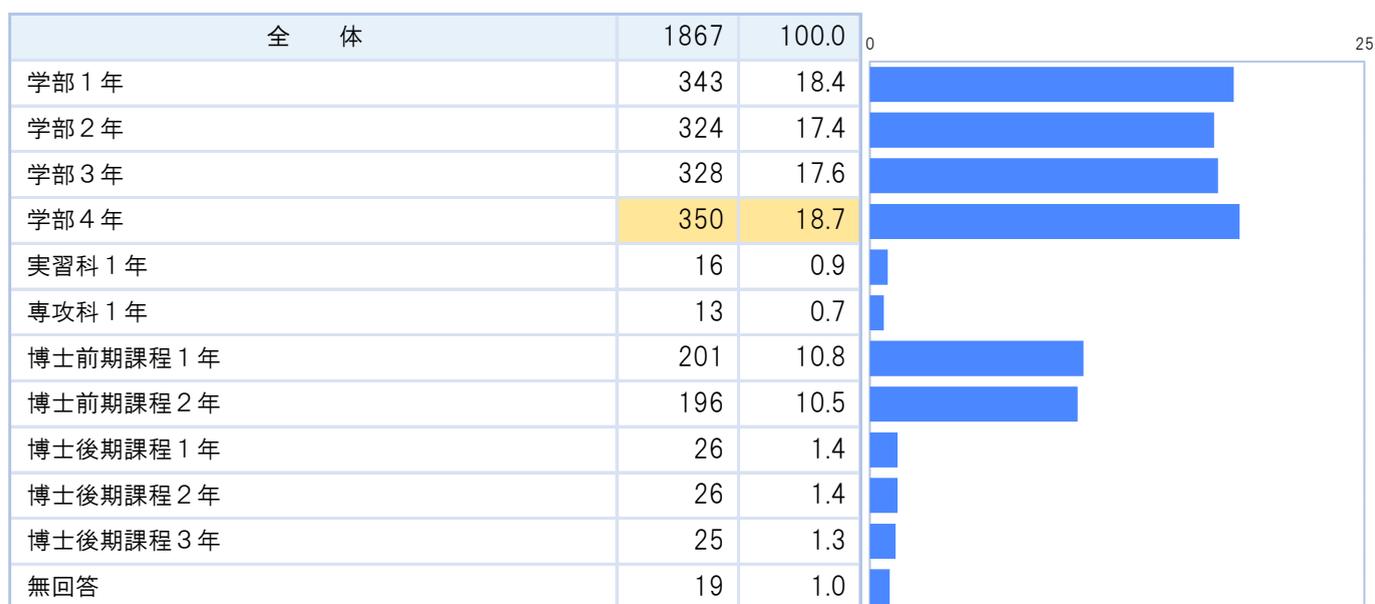


1-1. 所属学科、課程または専攻(合計)



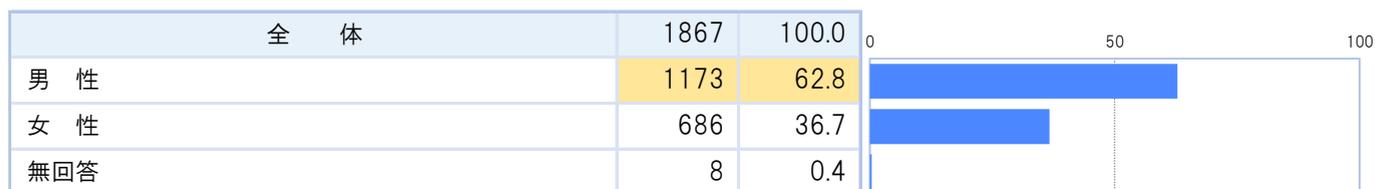
1-2. 回答者の学年

「学部4年」が350件(18.7%)、「学部1年」が343件(18.4%)、「学部3年」が328件(17.6%)の順となっている。



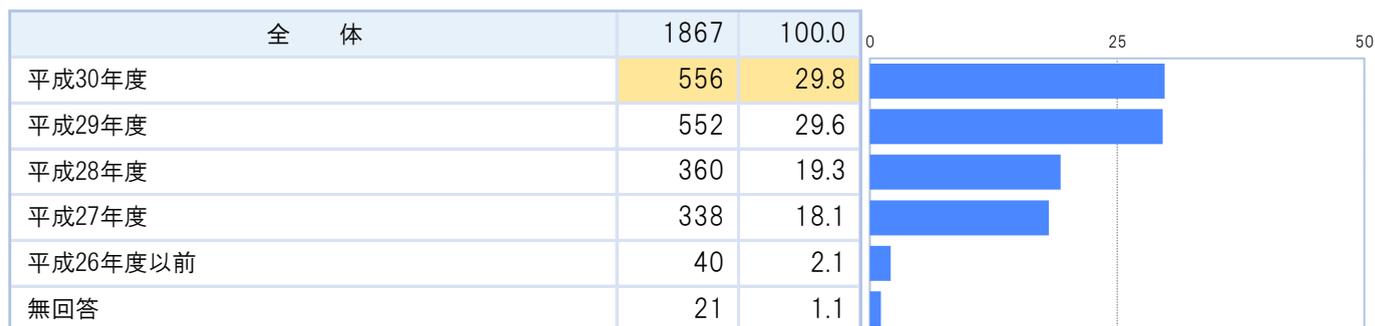
1-3. 回答者の性別

「男性」が1173件(62.8%)、「女性」が686件(36.7%)となっている。



1-4. 回答者の入学年度

「平成30年度」が556件(29.8%)、「平成29年度」が552件(29.6%)、「平成28年度」が360件(19.3%)の順となっている。



1-5. 外国人留学生であるか

「外国人留学生ではない」が1486件(79.6%)、「私費外国人留学生である」が102件(5.5%)、「国費外国人留学生である」が55件(2.9%)の順となっている。

全 体	1867	100.0	0	50	100
私費外国人留学生である	102	5.5			
国費外国人留学生である	55	2.9			
外国人留学生ではない	1486	79.6			
無回答	224	12.0			

II. 入学について

2-1. 東京海洋大学へ入学することをどの程度希望していたか

「どうしても入学したかった」がほぼ半数の921件(49.3%)を占めた。「だめなら他の大学でもよかった」の346件(18.5%)を合わせた第一志望として入学した学生の割合は67.8%であった。
一方、「本当は他の大学に行きたかった」379件(20.3%)と「特に考えていなかった」187件(10%)を合わせた第一志望ではない学生の割合は30.3%であった。
問8の東京海洋大学入学の動機における「自分の志望した研究分野があったから」の割合の高さ(55.1%)を合わせて考えると、海洋大で行われている研究・教育の内容に憧れて入学してくる学生が非常に多いことがわかる。

全 体	1867	100.0	0	25	50
どうしても入学したかった	921	49.3			
だめなら他大学でもよかった	346	18.5			
本当は他大学に行きたかった	379	20.3			
特に考えていなかった	187	10.0			
その他	19	1.0			
無回答	15	0.8			

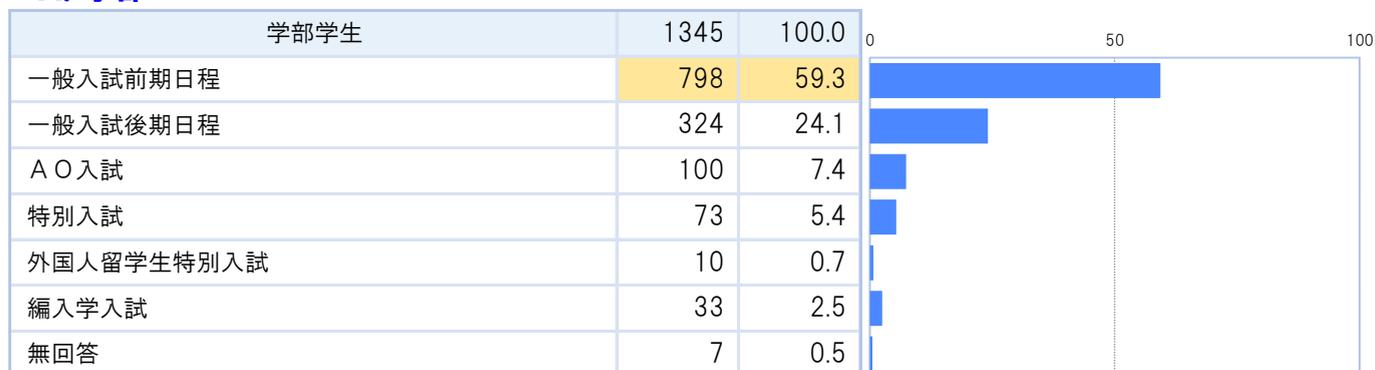
2-2. 合格した選抜方法

学部では、「一般入試前期課程」が798件(59.3%)、「一般入試後期日程」が324件(24.1%)で合わせて83.4%を占めた。次いで、「AO入試」が100件(7.4%)、「特別入試」が73件(5.4%)、「編入学入試」が33件(2.5%)、「外国人留学生特別入試」が10件(0.7%)であった。

大学院では、「一般選抜」が188件(39.2%)、「進学者専攻」が166件(34.7%)で合わせて73.9%を占めた。

そのほかは、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜、外国人留学生特別推薦選抜、国費外国人留学生(計87件、18.2%)に加え、大学院での教育プログラムである海洋環境・エネルギー専門職育成国際コース(日中韓)による19件(4.0%)もあった。

A. 学部

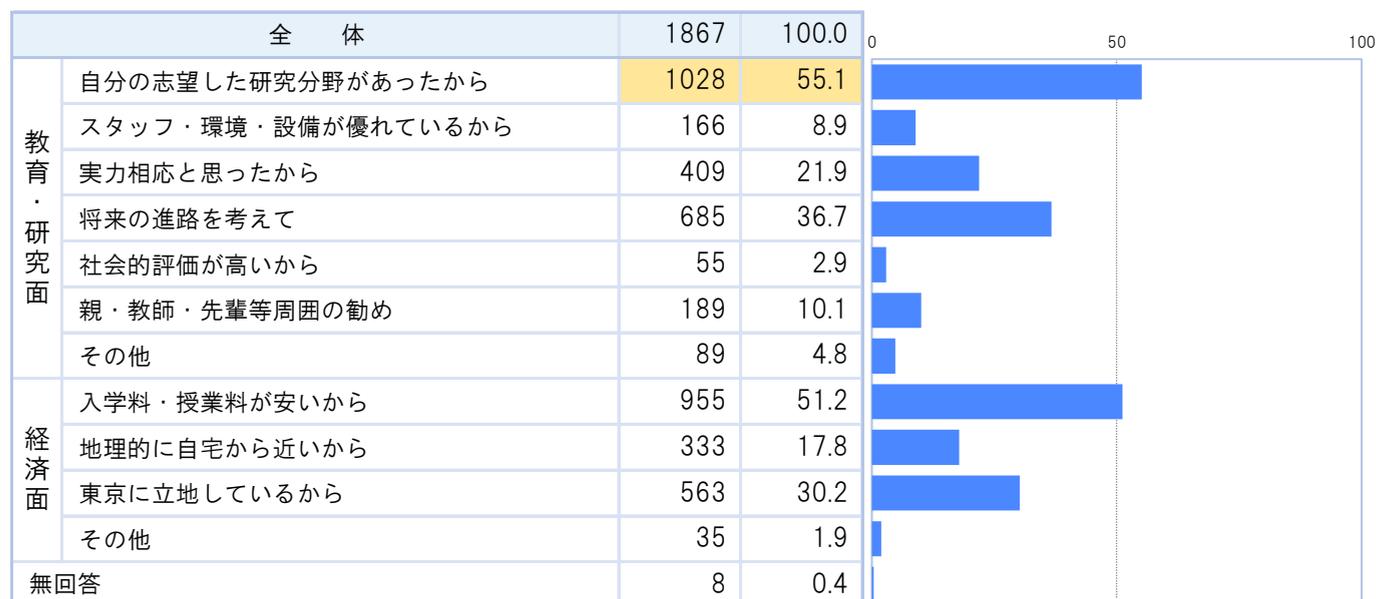


B. 大学院



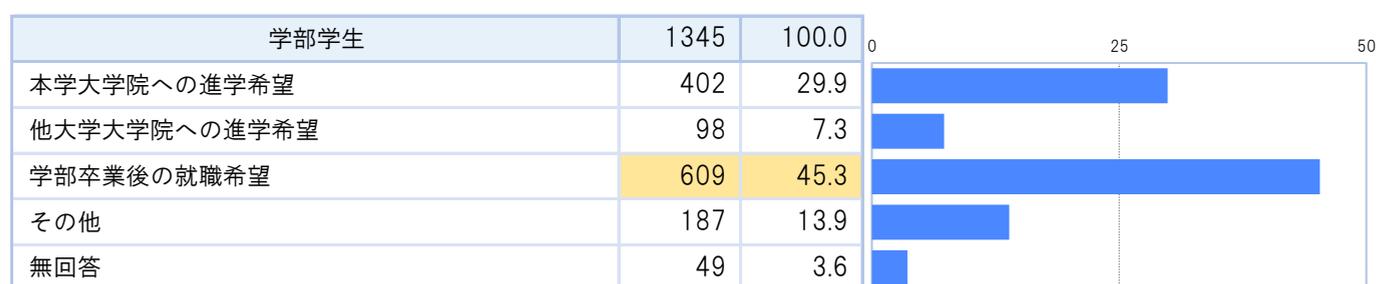
2-3. 東京海洋大学に入学した動機〔教育・研究面／経済面それぞれ2つまで回答〕

教育・研究面においては、「自分の志望した研究分野があったから」が1028件(55.1%)で半数を超え、「将来の進路を考えて」が685件(36.7%)であった。
 具体例において、海・魚が好き、おもしろそう、実習・実験に対する興味、他大学にはない特徴などが挙げられており、自身の海洋に対する興味と将来の海洋に関連した進路を見据えた動機が目立った。
 経済面においては、「入学料・授業料が安いから」が955件(51.2%)、次いで「東京に立地しているから」が563件(30.2%)、「地理的に自宅に近いから」が333件(17.8%)であり、具体例として寮の存在も挙げられており、地理・住環境条件の良さも大きな動機となっている。



2-4. 学部卒業後の大学院への進学希望又は就職希望について

「学部卒業後の就職希望」が609件(45.3%)、「本学大学院への進学希望」が402件(29.9%)で、約半数が就職希望であった。
 なお、「その他」が187件(13.9%)であったが、具体例として、乗船実習科、水産専攻科への進学希望が多かった。
 また、就職や進学希望の理由として、海技士や航海士になるため、早く就職して経済的に自立する、研究を継続・発展させたい、などが多く挙げられていた。



2-5. 本学学部から大学院へ進学した理由及び進学して良かった点、悪かった点

進学理由として、研究を継続して発展させたい、専門知識を収得できること、また就職に有利になる場合があることが挙げられていた。良かった点として、実際に専門知識を収得できたこと、やりたい職種が明確になり、就職活動の選択肢が増えたことなどが挙げられていた。
 悪かった点としては、ほとんど記載がなく、1点だけ、研究における拘束時間が長いことが記載されていた。

2-6. 留学生が本学大学院へ進学した理由及び進学して良かった点、悪かった点

進学理由として、日本で唯一の海洋科学分野における専門大学であること、自分の研究したい分野に優れていることが主に挙げられていた。

良かった点としては、生活環境や留学生に対する支援が良いこと、悪い点としては、英語による意思疎通が難しい場合があることなどが挙げられていた。

Ⅲ. 修学関係について

3-1. 大学の教育に満足しているか

「やや満足」が31%、「普通」が29%、「満足」が21%の順となっている。

不満な理由としては、「カリキュラムの内容に魅力を感じない・感じなくなった」が18%と最も多く、「その他」、「教員の教え方が悪い」がそれに続いている。

「その他」として、英語の授業が少ない事や、教員の英語力の不足を指摘する意見が挙がっていた。

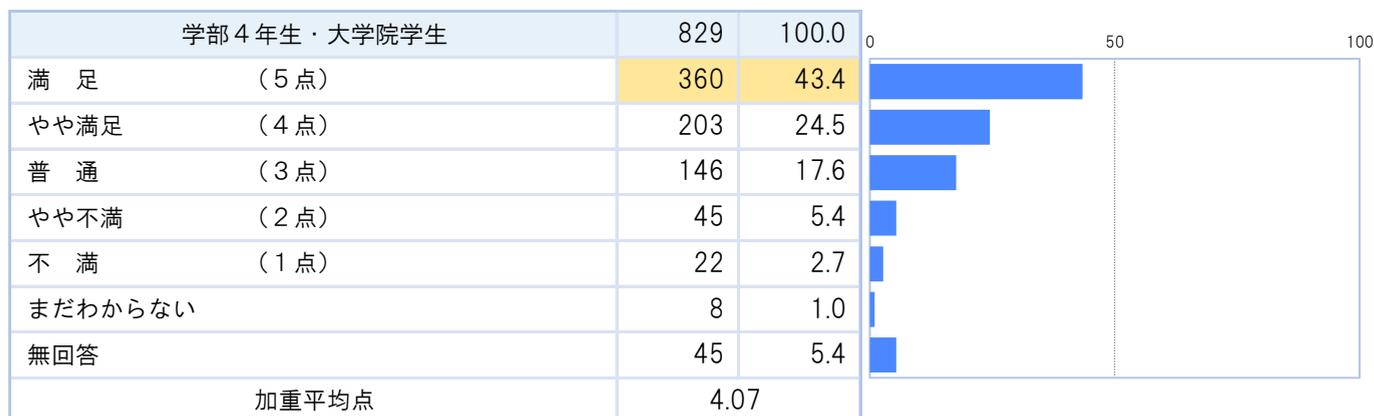
	全 体	1867	100.0
満 足	(5点)	386	20.7
やや満足	(4点)	570	30.5
普 通	(3点)	544	29.1
やや不満	(2点)	232	12.4
不 満	(1点)	64	3.4
まだわからない		36	1.9
無回答		35	1.9
加重平均点		3.55	

大学の教育に不満な理由

3-1. 大学の教育への満足度 = やや不満、不満	296	100.0
カリキュラムの内容に魅力を感じない・感じなくなった	53	17.9
講義の内容（専門的内容の充実）	30	10.1
講義の内容（基礎的内容の充実）	19	6.4
自分の考えていた内容・進路とは違った	31	10.5
設備が不十分（自習室・共用スペース）	43	14.5
教員の教え方が悪い	44	14.9
授業数(課題)が多く、学習したい内容に集中できない	22	7.4
その他	52	17.6
無回答	2	0.7

3-2. 大学の研究指導への満足度

「満足」が43%、「やや満足」が25%、「普通」が18%の順となっている。
 不満な理由としては、「研究の進め方について指導が不足している」が54%、「その他」が25%と続いている。
 「その他」として、研究に関わる設備・予算の不十分さが指摘されている。

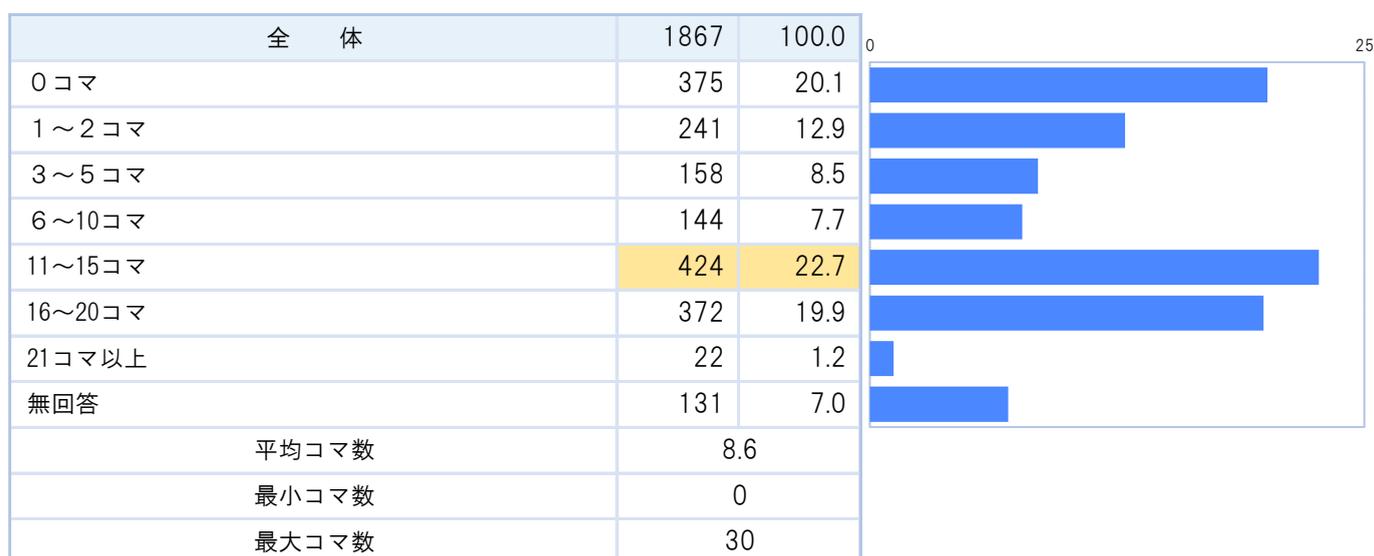


大学の研究指導に不満な理由



3-3. 週に何コマ授業を取っているか

「11～15コマ」が424件(22.7%)、「0コマ」が375件(20.1%)、「16～20コマ」が372件(19.9%)の順となっている。



3-4. 現在の取得単位数

基本的に所要単位数を目安として単位を取得している学生がほとんどで、それ以上の単位を意欲的に取得している学生が見られた。

① 全体

学部・修士・博士の2年以上	1249	100.0
20単位以下	198	15.9
21～40単位	64	5.1
41～60単位	241	19.3
61～80単位	35	2.8
81～100単位	203	16.3
101～120単位	162	13.0
121～140単位	178	14.3
141単位以上	40	3.2
無回答	128	10.2
平均取得単位数	76.9	
最小取得単位数	0	
最大取得単位数	250	

② 学部2年

学部2年	324	100.0
40単位以下	34	10.5
41～50単位	160	49.4
51～60単位	81	25.0
61～70単位	1	0.3
71～80単位	0	0.0
81単位以上	2	0.6
無回答	46	14.2
平均取得単位数	48.5	
最小取得単位数	4	
最大取得単位数	100	

③ 学部3年

学部3年	328	100.0
60単位以下	0	0.0
61～70単位	4	1.2
71～80単位	29	8.8
81～90単位	69	21.0
91～100単位	131	39.9
101～110単位	37	11.3
111単位以上	18	5.5
無回答	40	12.2
平均取得単位数	94.9	
最小取得単位数	67	
最大取得単位数	160	

④ 学部4年

学部4年	350	100.0
100単位以下	2	0.6
101～110単位	12	3.4
111～120単位	81	23.1
121～130単位	147	42.0
131～140単位	46	13.1
141～150単位	24	6.9
151単位以上	15	4.3
無回答	23	6.6
平均取得単位数	127.7	
最小取得単位数	70	
最大取得単位数	250	

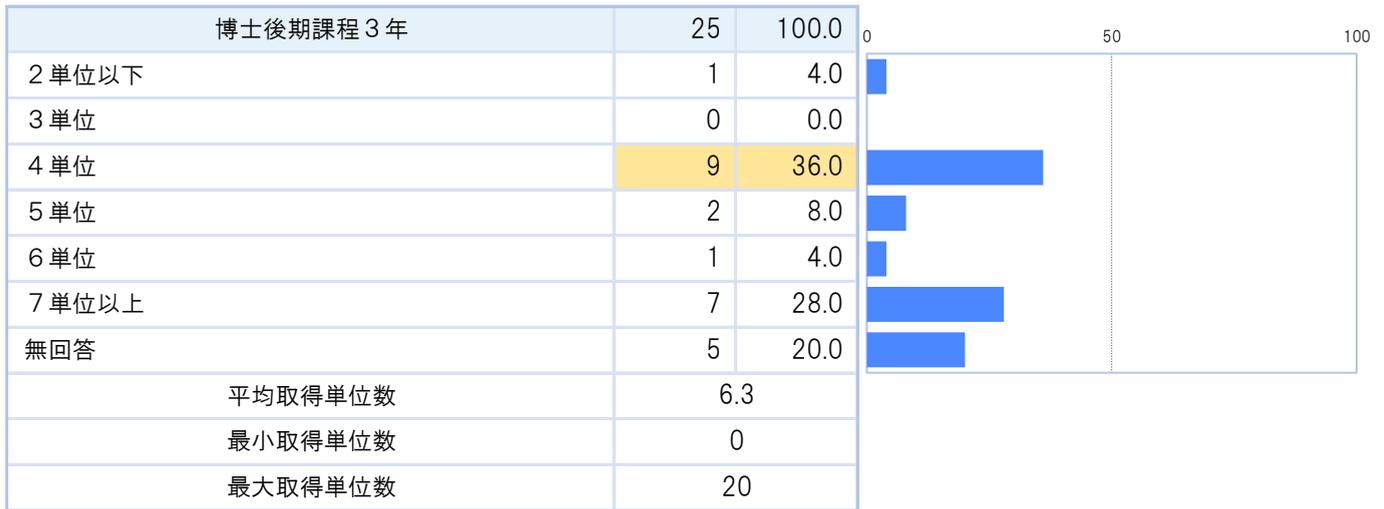
⑤ 博士前期課程2年

博士前期課程2年	196	100.0
10単位以下	7	3.6
11～15単位	13	6.6
16～20単位	130	66.3
21～25単位	19	9.7
26～30単位	8	4.1
31単位以上	6	3.1
無回答	13	6.6
平均取得単位数	18.8	
最小取得単位数	0	
最大取得単位数	34	

⑥ 博士後期課程2年

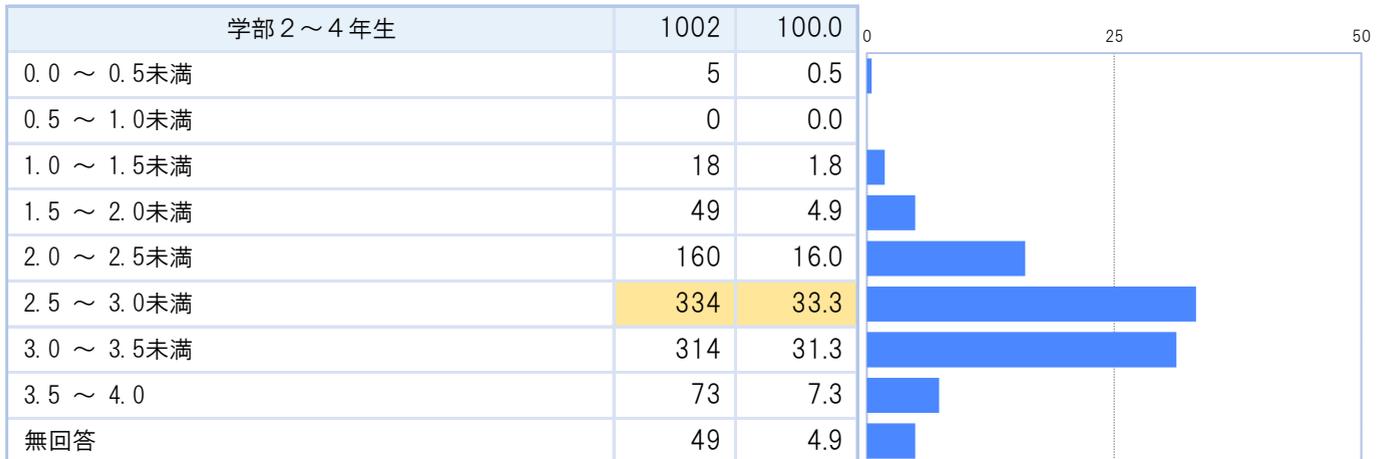
博士後期課程2年	26	100.0
2単位以下	6	23.1
3単位	1	3.8
4単位	10	38.5
5単位	2	7.7
6単位	3	11.5
7単位以上	3	11.5
無回答	1	3.8
平均取得単位数	4.2	
最小取得単位数	0	
最大取得単位数	10	

⑦ 博士後期課程3年



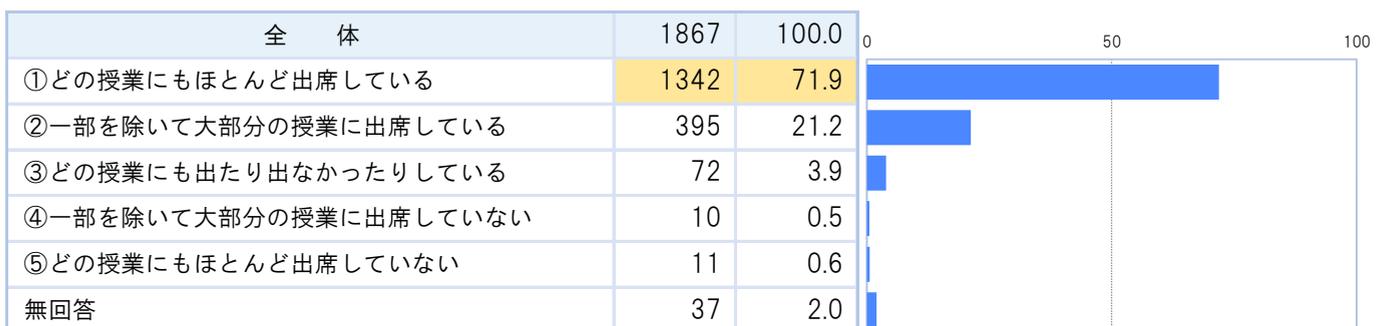
3-5. 昨年度のGPA

「2.5～3.0未満」が334件(33.3%)、「3.0～3.5未満」が314件(31.3%)、「2.0～2.5.未満」が160件(16.0%)の順となっている。



3-6. 授業にどれくらい出席しているか、あるいは出席していたか

「どの授業にもほとんど出席している」が1342件(71.9%)、「一部を除いて大部分の授業に出席している」が395件(21.2%)、「どの授業にも出たり出なかつたりしている」が72件(3.9%)の順となっている。



3-7. 授業に欠席する理由〔2つまで回答〕

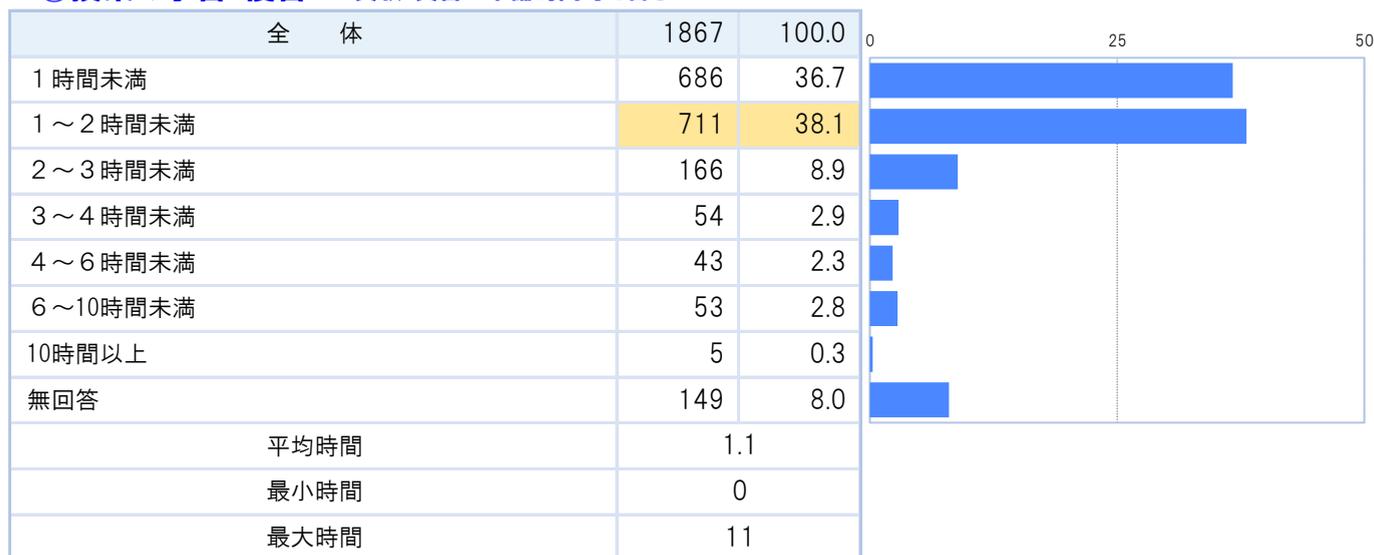
「授業に魅力がない」が34%、「ただなんとなく」が22%、「その他」が20%の順となっている。「その他」の理由として、寝坊が最も多く、その他、研究や実験を優先するためという回答が目立った。



3-8. 1日に平均何時間くらい学習やレポート作成等をしているか

全体に1~2時間未満が多く、十分な学習時間が取られていないという結果となっている。

①授業の予習・復習 ※実験・実習の準備時間等を含む



②課題やレポート作成 ※休業期間中も含む

全 体	1867	100.0
1 時間未満	385	20.6
1 ～ 2 時間未満	712	38.1
2 ～ 3 時間未満	329	17.6
3 ～ 4 時間未満	145	7.8
4 ～ 6 時間未満	103	5.5
6 ～ 10 時間未満	29	1.6
10 時間以上	10	0.5
無回答	154	8.2
平均時間	1.5	
最小時間	0	
最大時間	10	

③大学の授業と関係のない学習

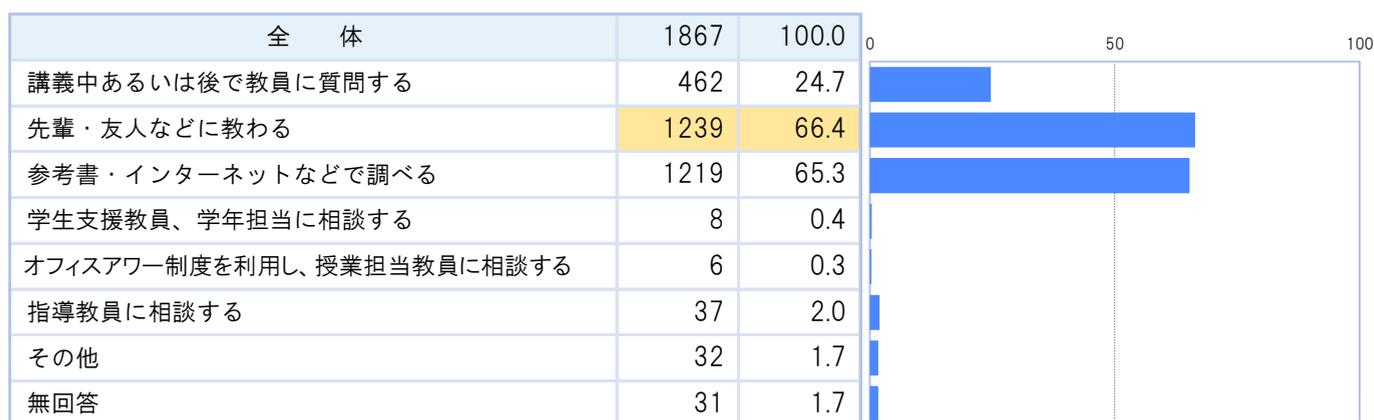
全 体	1867	100.0
1 時間未満	737	39.5
1 ～ 2 時間未満	544	29.1
2 ～ 3 時間未満	172	9.2
3 ～ 4 時間未満	71	3.8
4 ～ 6 時間未満	72	3.9
6 ～ 10 時間未満	48	2.6
10 時間以上	14	0.7
無回答	209	11.2
平均時間	1.2	
最小時間	0	
最大時間	12	

①～③のそれぞれが全体に占める割合 全1867件の回答数値を合計し、平均の割合を算出

全合計時間	6469.4	100.0
①授業の予習・復習 合計	1887.1	29.2
②課題やレポート作成 合計	2621.8	40.5
③大学の授業と関係のない学習 合計	1960.5	30.3

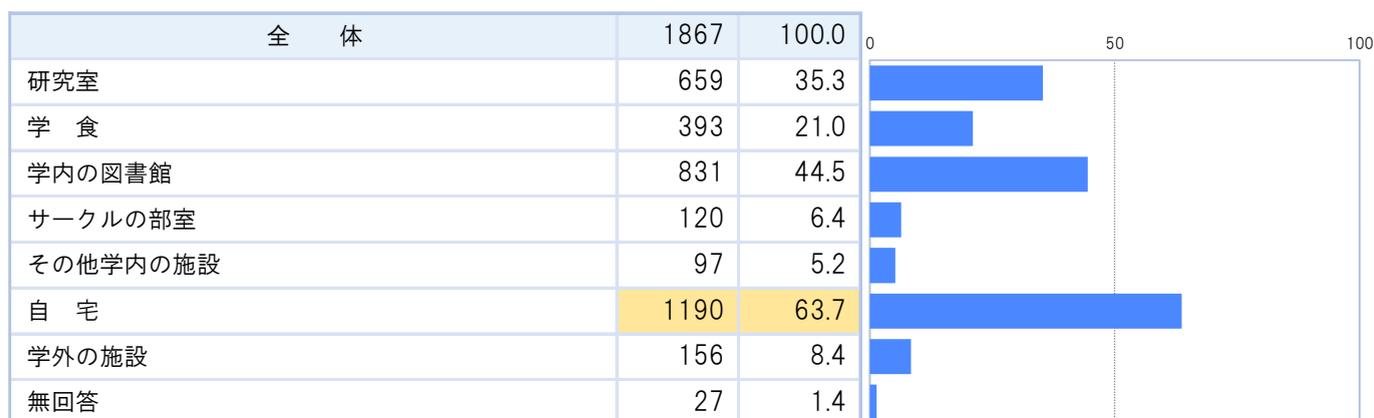
3-9. 授業内容が理解できなかった場合どのようにしているか〔2つまで回答〕

「先輩・友人などに教わる」が1239件(66.4%)、「参考書・インターネットなどで調べる」が1219件(65.3%)、「講義中あるいは後で教員に質問する」が462件(24.7%)の順となっている。



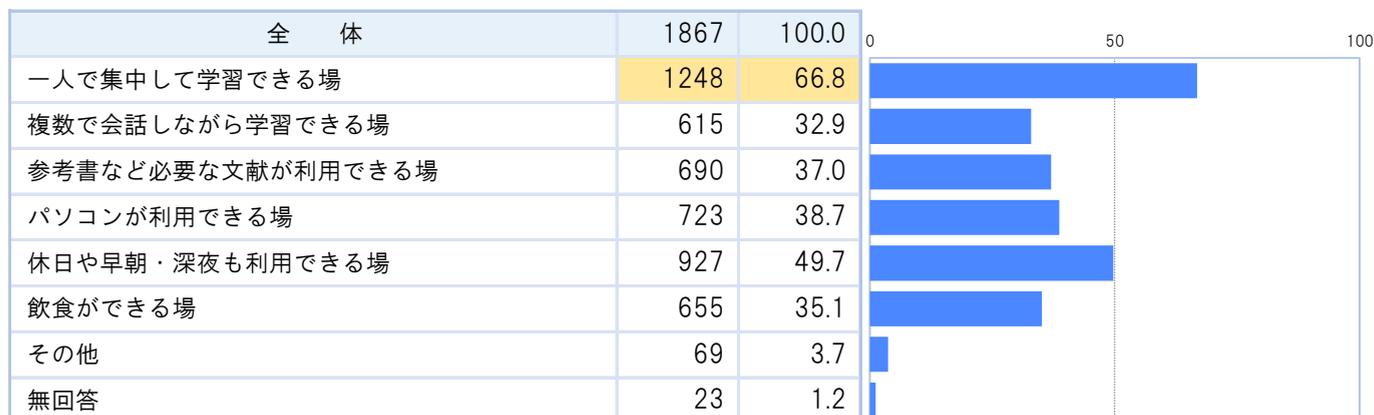
3-10. 授業以外の勉強をどこで行っているか〔いくつでも回答〕

「自宅」が64%、「学内の図書館」が45%、「研究室」が35%の順となっている。「その他と学内の施設」としては、グローバルコモンや学習室、自習室、生協前が挙げられ、「学外の施設」については、喫茶店や飲食店、一般の図書館や電車内が挙げられていた。



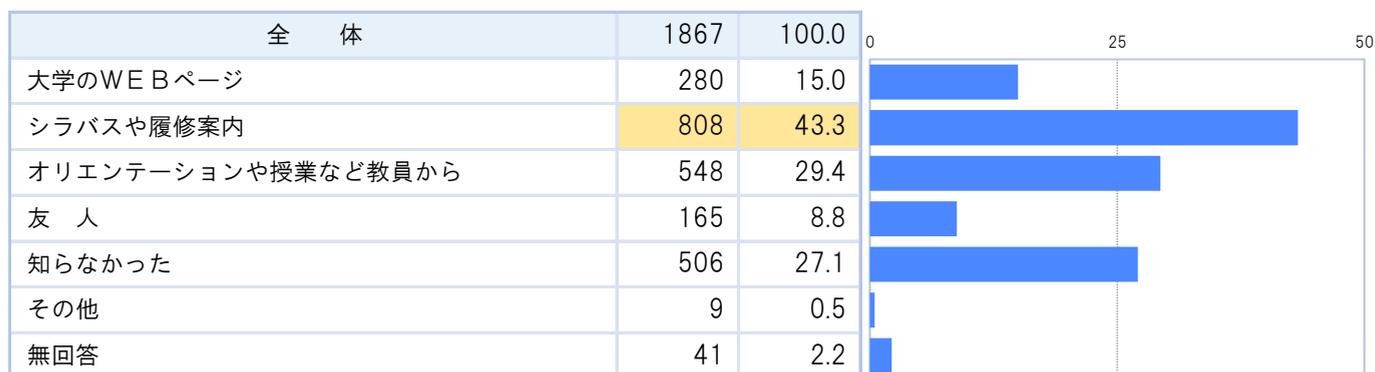
3-11. 学内で学習する場として必要な条件〔いくつでも回答〕

「一人で集中して学習できる場」が67%、「休日や早朝・深夜も利用できる場所」が50%、「パソコンが利用できる場」が39%の順となっている。
その他の意見から、Wi-Fi等によるインターネットと電源が確保でき、空調が整った静かな環境が求められていることが判った。



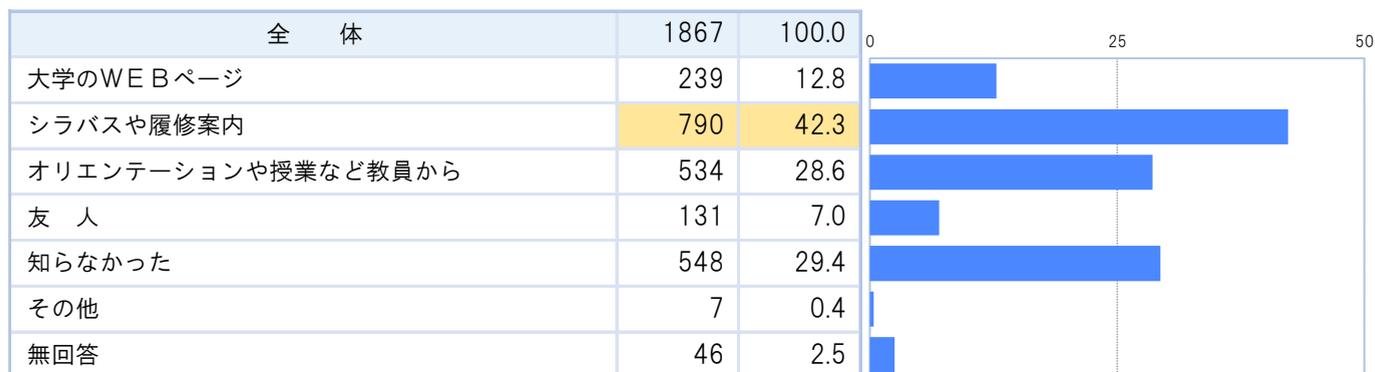
3-12. 教育課程方針に基き成績評価基準が定められていることを知った経緯 [いくつでも回答]

「シラバスや履修案内」が808件(43.3%)、「オリエンテーションや授業など教員から」が548件(29.4%)、「知らなかった」が506件(27.1%)の順となっている。



3-13. 学位授与方針に基き卒業・修了要件、評価の基準が定められていること知った経緯 [いくつでも回答]

「シラバスや履修案内」が790件(42.3%)、「知らなかった」が548件(29.4%)、「オリエンテーションや授業など教員から」が534件(28.6%)の順となっている。



3-14. 東京海洋大学の学位授与方針が、入学後現在までに身についたと思うか

全体的に身についたとの回答が多い結果となった。

	件数	(5点) そう思う	(4点) ややそう思う	(3点) どちらでもない	(2点) あまりそう思わない	(1点) そう思わない	無回答	(加重平均点)
①海洋に対する科学的認識を深化させ、自然環境の望ましい活用方を提示し、実践する能力	1867 100.0	366 19.6	689 36.9	424 22.7	200 10.7	122 6.5	66 3.5	3.54
②論理的思考力、適切な判断力、社会に対する責任感を持って行動する能力	1867 100.0	366 19.6	720 38.6	492 26.4	141 7.6	79 4.2	69 3.7	3.64
③現代社会の大局化した諸課題について理解・認識し、対応できる実践的指導力	1867 100.0	266 14.2	573 30.7	612 32.8	242 13.0	104 5.6	70 3.7	3.36
④豊かな人間性、幅広い教養、深い専門的知識・技術による課題探究、問題解決能力	1867 100.0	370 19.8	714 38.2	484 25.9	144 7.7	87 4.7	68 3.6	3.63
⑤国際交流の基盤となる幅広い視野・能力と文化的素養	1867 100.0	282 15.1	539 28.9	559 29.9	254 13.6	164 8.8	69 3.7	3.29

IV. 学生生活について

4-1. 全体として本学における学生生活に満足しているか

「満足」が561件(30.0%)、「やや満足」が735件(39.4%)で、両方を合わせると約70%、「普通」の412件(22.1%)を合わせると約90%となった。
一方、「不満」は22件(1.2%)、「やや不満」は91件(4.9%)であった。全体としては満足している学生が大勢を占めるものの、約6%の不満を抱える学生も存在している。

	全体	1867	100.0
満足 (5点)	561	30.0	
やや満足 (4点)	735	39.4	
普通 (3点)	412	22.1	
やや不満 (2点)	91	4.9	
不満 (1点)	22	1.2	
無回答	46	2.5	
加重平均点		3.95	

4-2. 学生生活における大学の対応や支援についての満足度(1~7位の順位で回答)

最も多く1位に選ばれ、かつ7位が最も少なかったのが「教育・修学」であった。1位に選ばれた数でみると、「課外活動」が続いており、大学生活における主要活動への支援に対する満足度の高さが見て取れる。逆に7位に選ばれた件数が相対的に多かったのが「居住環境」と「進路・就職」であり、今後の検討の余地を残している。

	件数	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	無回答
①教育・修学	1867 100.0	686 36.7	312 16.7	261 14.0	160 8.6	126 6.7	102 5.5	75 4.0	145 7.8
②学生支援	1867 100.0	119 6.4	314 16.8	240 12.9	288 15.4	229 12.3	247 13.2	268 14.4	162 8.7
③経済状況	1867 100.0	212 11.4	266 14.2	321 17.2	258 13.8	262 14.0	225 12.1	161 8.6	162 8.7
④居住環境	1867 100.0	227 12.2	203 10.9	220 11.8	237 12.7	249 13.3	252 13.5	314 16.8	165 8.8
⑤健康・悩み	1867 100.0	81 4.3	131 7.0	197 10.6	291 15.6	361 19.3	347 18.6	288 15.4	171 9.2
⑥課外活動	1867 100.0	301 16.1	264 14.1	203 10.9	220 11.8	207 11.1	277 14.8	232 12.4	163 8.7
⑦進路・就職	1867 100.0	198 10.6	261 14.0	260 13.9	230 12.3	229 12.3	208 11.1	315 16.9	166 8.9

 最も回答の多かった順位を示す
 最も回答の少なかった順位を示す

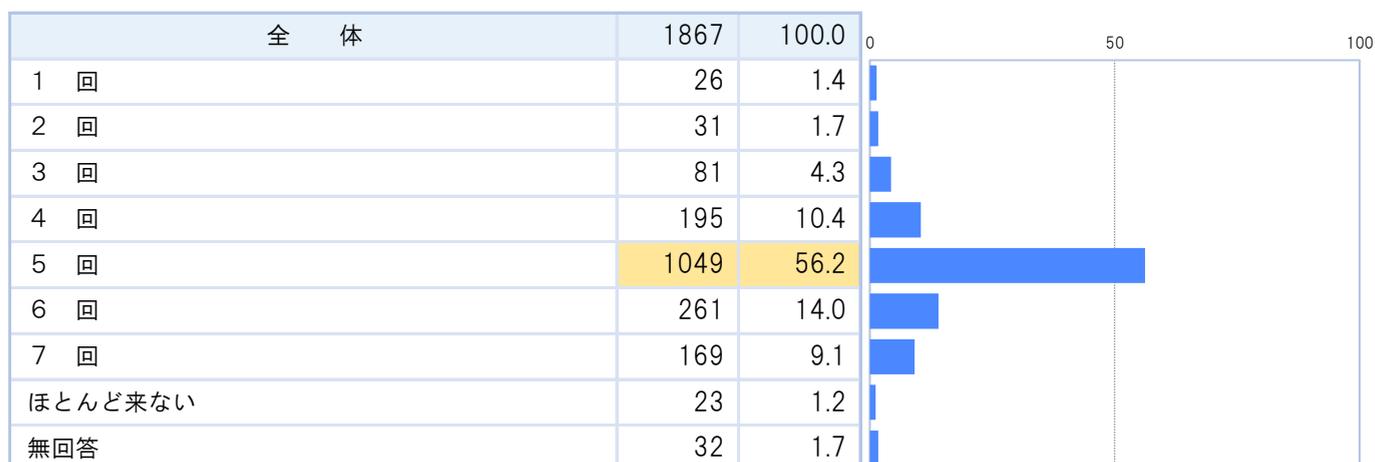
4-3. 大学で、授業以外の時間はどこにいるか【いくつでも回答】

最も多かったのは「学食」の891件(回答者数に占める割合・47.7%)で、その他の661件(同・35.4%)、「図書館」の641件(同・34.3%)が続いている。また、その他には「研究室」が多く含まれていた。

全 体	1867	100.0	
学 食	891	47.7	
戸 外	271	14.5	
図書館	641	34.3	
サークルの部室	371	19.9	
その他学内の施設	661	35.4	
無回答	37	2.0	

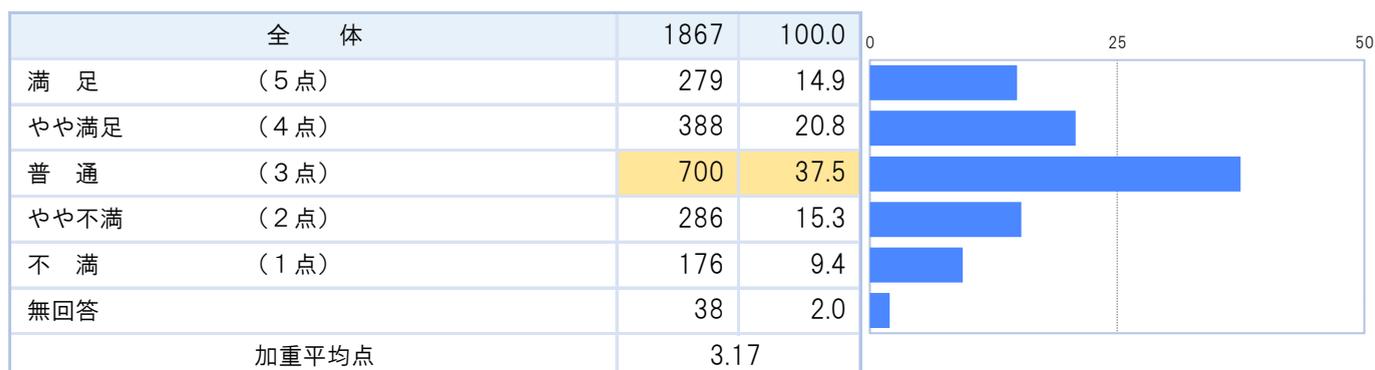
4-4. 週平均何回大学に来ているか

「5回」が1049件(56.2%)で最も多く、平日に毎日登校する学生が半分以上を占めた。さらに「6回」は261件(14%)、「7回」は169件(9.1%)であり、「5日以上」の割合は約80%となった。



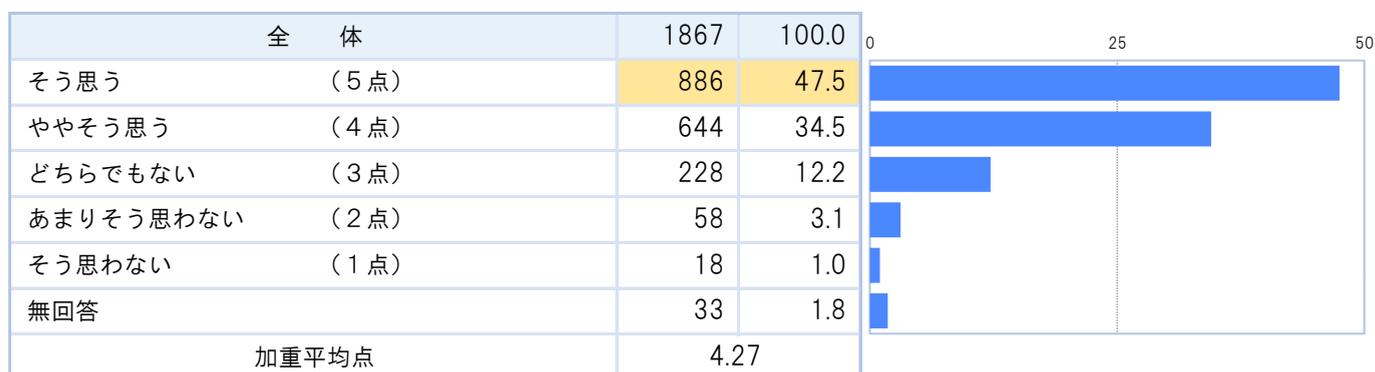
4-5. 大学の窓口対応について

「普通」が700件(37.5%)であり、「やや満足」の388件(20.8%)、「やや不満」の286件(15.3%)が続いた。加重平均点は3.17と、「普通」をやや上回るレベルの満足度であった。



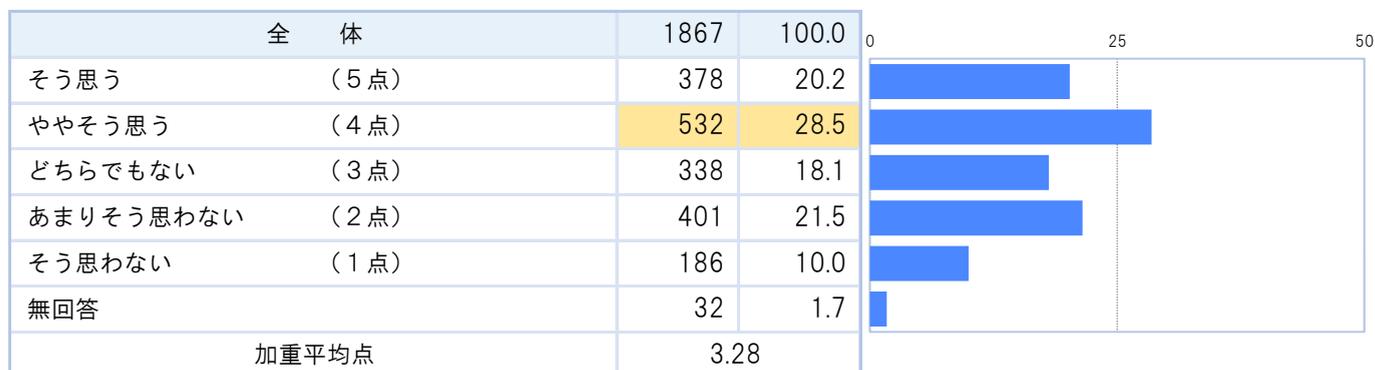
4-6. 大学での友人関係は良いと思うか

友人関係を良いと捉えているものが886件(47.5%)、「ややそう思う」が644件(34.5%)であり、その合計は82%となった。加重平均点も4.27であり、全体として、普通以上に良い友人関係を築けているという認識を有している。



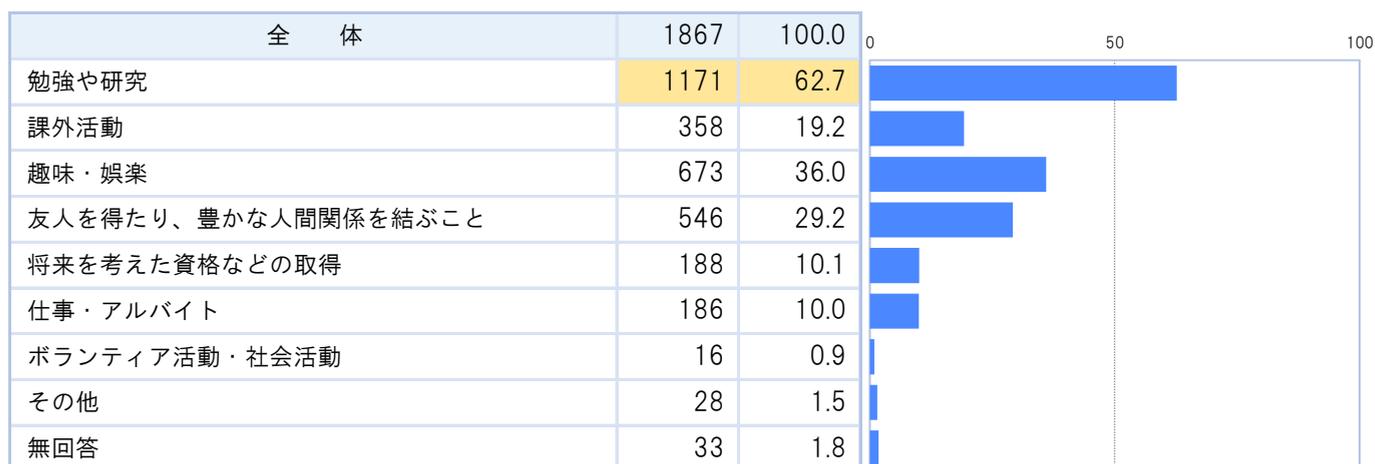
4-7. 自分の1日の生活リズムは規則正しいと思うか

自分の1日の生活リズムに対する認識については、「ややそう思う」が532件(28.5%)と最も多かった。「そう思う」の378件(20.2%)との合計は48.7%であった。「そう思う」に続くのは「あまりそう思わない」の401件(21.5%)であった。加重平均点は3.28となったが、自らの生活リズムを規則正しいと認識していない学生の存在が確認された。



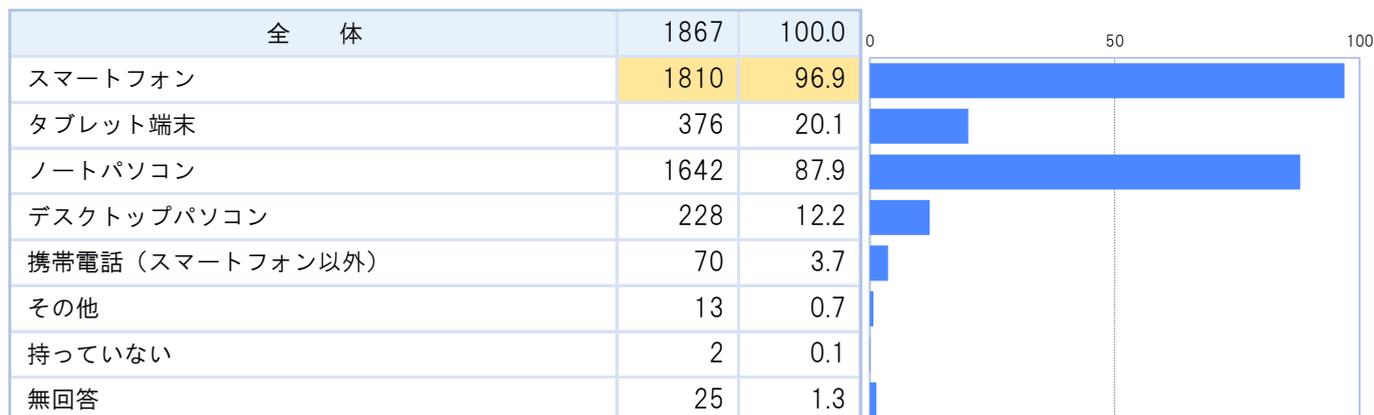
4-8. 現在の大学生活で何を最も大切にしているか〔2つまで回答〕

最も大切にされているのは「勉強や研究」の1171件(回答者数に占める割合・62.7%)となり、「趣味・娯楽」の673件(同・36%)、「友人を得たり、豊かな人間関係を結ぶこと」の546件(同・29.2%)、「課外活動」の358件(同・19.2%)がそれに続いており、「勉強や研究」の重要度が際立つ結果となった。



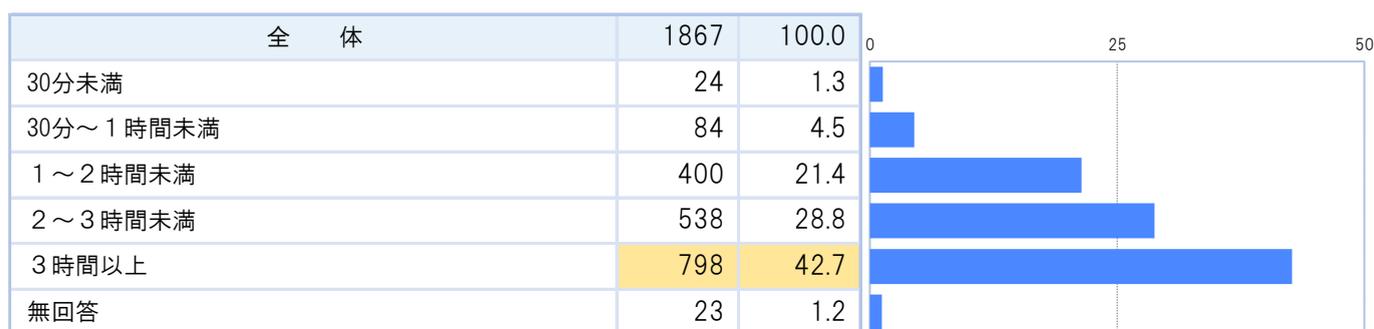
4-9. 持っている通信機器〔いくつでも回答〕

「スマートフォン」は1810件(96.9%)とほとんどの学生が所有している。
 「ノートパソコン」を所有している学生も1642件(87.9%)と多い。
 「持っていない」および「無回答」を除く回答数は4139、回答者数が1838となることから、平均すると1人あたり2.25台の通信機器(PC含む)を所有していた。



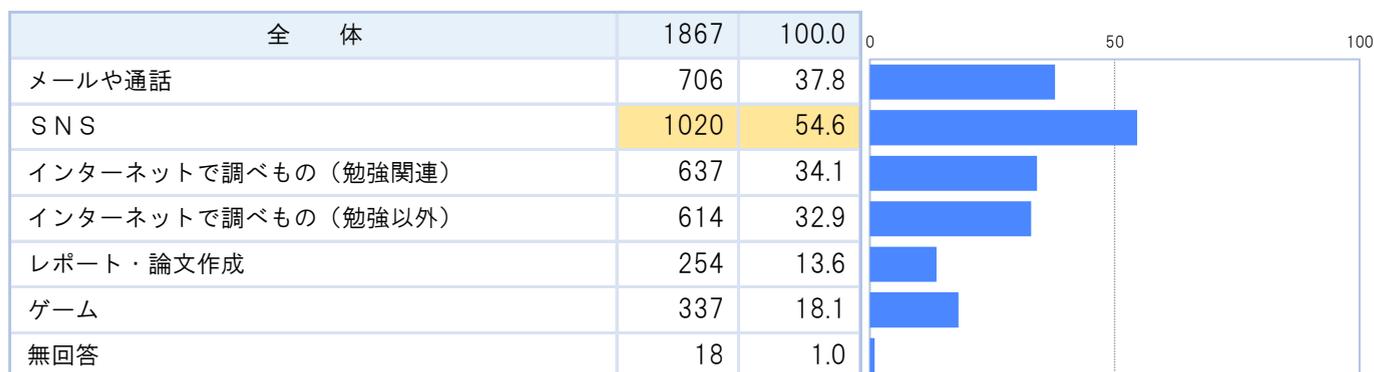
4-10. 通信機器(スマートフォンなど)をメールやインターネットで使用する1日の平均時間

「3時間以上」が798件(42.7%)と最も多く、「2～3時間未満」は538件(28.8%)、「1～2時間未満」は400件(21.4%)となり、ほとんどの学生が一日に1時間以上インターネットを利用していた。



4-11. 通信機器(スマートフォンなど)の使用目的〔2つまで回答〕

「SNS」の1020件(回答者数に占める割合・54.6%)が最も多く、「メールや通話」の706件(同・37.8%)、「インターネットで調べもの(勉強関連)」の637件(同・34.1%)、「インターネットで調べもの(勉強以外)」の614件(同・32.9%)が続いた。



4-12. 大学からの情報を主にどこから得ているか〔3つまで回答〕

「掲示」が1160件(回答者数に占める割合・62.1%)、「同級生」が1128件(同・60.4%)となった。一方、「学務システム(Live campus)」は874件(同・46.8%)、「ホームページ」は396件(同・21.2%)であり、インターネットも利用されているが、大学での確認や友人からの情報収集が多く見られた。



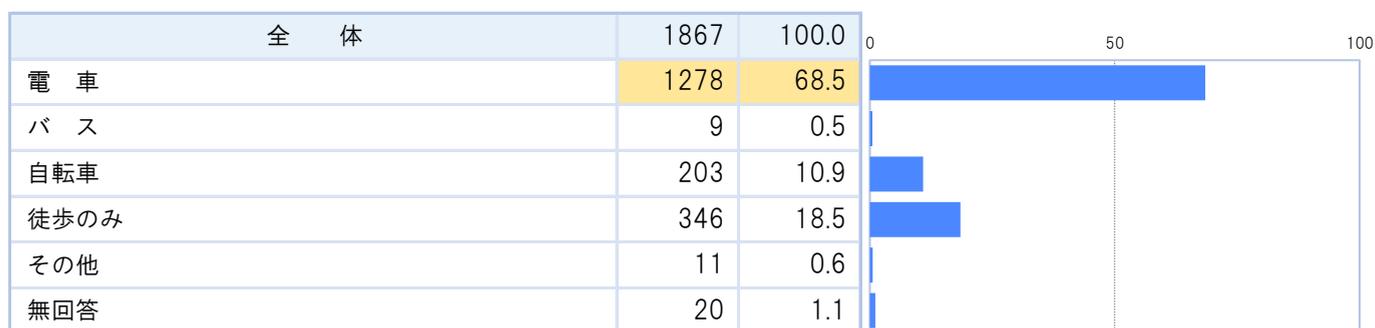
V. 通学・居住について

5-1. 通学に利用している交通機関

「電車」が1278件(68.5%)、「徒歩のみ」が346件(18.5%)、「自転車」が203件(10.9%)の順となっている。

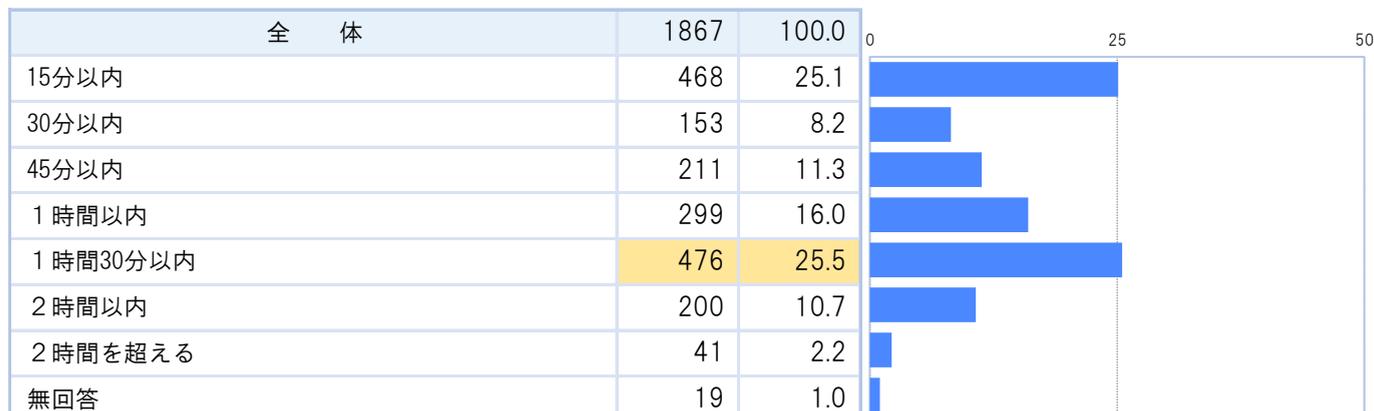
「電車通学」の割合が2%ほど増えているが、有意な差はない。

自由記述では「新幹線通学2名」とある。新幹線通学に関しては、寮に入居できなかったため自宅から通学していると推察される。この事実が本当であるなら、寮への入居に関する条件を見直す必要があるかもしれない(財務状況で通常、生活できると判断される留学生より、遠距離在住の学生を優遇するなど)。



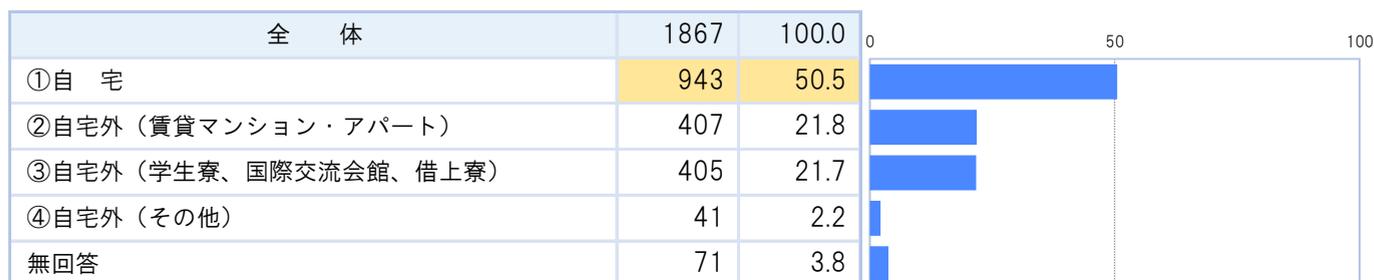
5-2. 片道の通学時間

「1時間30分以内」が476件(25.5%)、「15分以内」が468件(25.1%)、「1時間以内」が299件(16.0%)の順となっている。
平成27年度調査結果と比較して、有意な差はない。



5-3. 回答者が現在住んでいる住居の区分

「自宅」が943件(50.5%)、「自宅外(賃貸マンション・アパート)」が407件(21.8%)、「自宅外(学生寮、国際交流会館、借上寮)」が405件(21.7%)の順となっている。
平成27年度調査結果と比較して、有意な差はない。
平成27年度調査結果より、「自宅外(賃貸マンション・アパート)」が3.6%減少しているが、無回答が2.1%増加しており、増減に関する議論はできない。
「シェアハウス利用者」が1名いるが、寮や安い賃料のアパートが見つからない場合は、利用者が増える可能性がある。



5-4. 家族と連絡をとる頻度

「1ヶ月に数回」が356件(41.7%)、「週に数回」が289件(33.9%)、「ほぼ毎日」が118件(13.8%)の順となっている。
1ヶ月以内に連絡を取る学生は89.4%と前回調査より若干増加している。特に有意な差は見られない。



5-5. 賃料から考えての住居の住み心地

「満足している」が397件(46.5%)、「どちらかという満足している」が216件(25.3%)、「どちらかという不満である」が123件(14.4%)の順となっている。
住居に不満を感じている理由では、「家賃が高い」が77件(53.1%)、「部屋が狭い」が63件(43.4%)、「施設が充実していない」が38件(26.2%)の順となっている。
平成27年度調査結果と比較して、「どちらかという不満」という意見が4.8%増加している。「高い家賃・部屋の狭さ・施設の充実加減」などが原因で、家賃に関しては寮などの利用機会を増やすなどの対策が挙げられる。
施設の充実に関しては、問40および問43から、主に寮の施設(キッチン・浴場・洗濯機など)の不満を反映した結果と推察できる。

5-3. 現在の住居区分 = 自宅外(②~④)を回答	853	100.0	
満足している (5点)	397	46.5	
どちらかという満足している (4点)	216	25.3	
どちらともいえない (3点)	87	10.2	
どちらかという不満である (2点)	123	14.4	
不満である (1点)	22	2.6	
無回答	8	0.9	
加重平均点	4.00		

住居に不満を感じている点〔2つまで回答〕

5-5. 住み心地…不満、どちらかという不満	145	100.0	
部屋が狭い	63	43.4	
通学に不便	27	18.6	
家賃が高い	77	53.1	
施設が充実していない	38	26.2	
その他	22	15.2	
無回答	1	0.7	

5-6. 学生寮についてどう思うか

「現在自宅または一人暮らしで今後も今の住居から通学したい」が988件(52.9%)、「現在入寮していて、可能ならずっと入寮したい」が359件(19.2%)、「現在自宅または一人暮らしで、学生寮の入寮を希望する」が329件(17.6%)の順となっている。
平成27年度調査結果と比較して、4.1%減少しているが、「自宅からの通学希望」は依然半数以上を占める。「寮に入居中もしくは入居希望者」は35.6%から36.8%とほぼ変わらずであり、3割強の学生は入寮を希望している。自宅・寮を選択する学生が8割を超えており、昨今の経済事情を反映していると推察できる。
一方で、寮に関しては問42で述べたように、施設に関する不満が多い。一人部屋の希望者や寮生大会・古い慣習を忌み嫌う意見も多いが、反面、寮生どうしのつながりや学生による自治を希望する意見も少数ではあるが存在する。また外国人留学生の行動についても問題があるとの指摘がある。

全 体	1867	100.0	
現在入寮していて、可能ならずっと入寮したい	359	19.2	
現在自宅または一人暮らしで、学生寮の入寮を希望する	329	17.6	
現在入寮しているが、今後マンション等に転居したい	53	2.8	
現在自宅または一人暮らしで今後も今の住居から通学したい	988	52.9	
無回答	138	7.4	

5-7. 学生寮を希望しない理由

「一人部屋の希望」が圧倒的に多く、残りの意見は、「狭い・汚い・ルールが面倒・自宅から通学していて(金銭的にも)メリットを感じない・引っ越しが面倒くさい・友人を呼べない・入寮条件を満たしていないこと」というものが占める。大半は寮費が安い理由を考えていないこと、寮生活を通じた上下・同期のつながりを重視しない学生が極めて多い。これらは特段大学側が対応することではない。一方、入寮希望のタイミングが合格前であること、寮施設の清掃(キッチンなど)については大学側で対応できる案件と考えられる。

VI. アルバイトについて

6-1. 過去1年間にアルバイトをしたか

「継続的(1ヵ月以上)にアルバイトをした」が1170件(62.7%)、「しなかった」が352件(18.9%)、「継続的アルバイトと臨時アルバイトをどちらもした」が190件(10.2%)、「臨時(1ヵ月未満)にアルバイトをした」が131件(7.0%)の順になっている。

アルバイトを行った学生が約80%に達しているが、前回調査と同程度であった。

全 体	1867	100.0	
①継続的(1ヵ月以上)にアルバイトをした	1170	62.7	
②臨時(1ヵ月未満)にアルバイトをした	131	7.0	
③継続的アルバイトと臨時アルバイトをどちらもした	190	10.2	
④しなかった	352	18.9	
無回答	24	1.3	

6-2. アルバイトの種類 [2つまで回答]

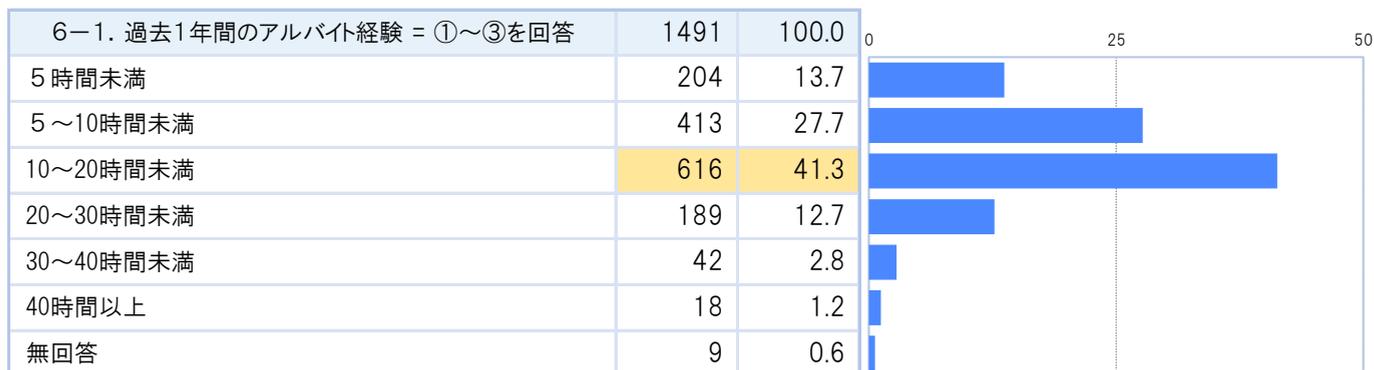
「飲食業」が743件(49.8%)、「販売・サービス(コンビニの店員等)」が477件(32.0%)で、80%を超えている。教育に関連した業種として、「家庭教師や塾の講師」が267件(17.9%)や大学の教育(TA・RA・研究補助など)が110件(7.4%)を占めていた。

具体的な職種としては、イベントスタッフ、派遣、博物館、清掃作業など、前回調査同様に多様であった。

6-1. 過去1年間のアルバイト経験 = ①~③を回答	1491	100.0	
家庭教師や塾の講師	267	17.9	
販売・サービス(コンビニの店員等)	477	32.0	
飲食業	743	49.8	
事務	87	5.8	
重労働(土木・建設作業等)	31	2.1	
配送業	74	5.0	
大学の教育(TA・RA・研究補助など)	110	7.4	
その他	137	9.2	
無回答	3	0.2	

6-3. 1週間のアルバイト従事時間(往復の時間を含む)

「10～20時間未満」が616件(41.3%)、「5～10時間未満」が413件(27.7%)、「5時間未満」が204件(13.7%)の順となっている。「20～30時間未満」の189件(12.7%)を加えると、平均的には半数が週に20時間、1日3時間程度のアルバイトを行っており、前回調査と同程度になっている。



6-4. どこでアルバイトの紹介を受けたか

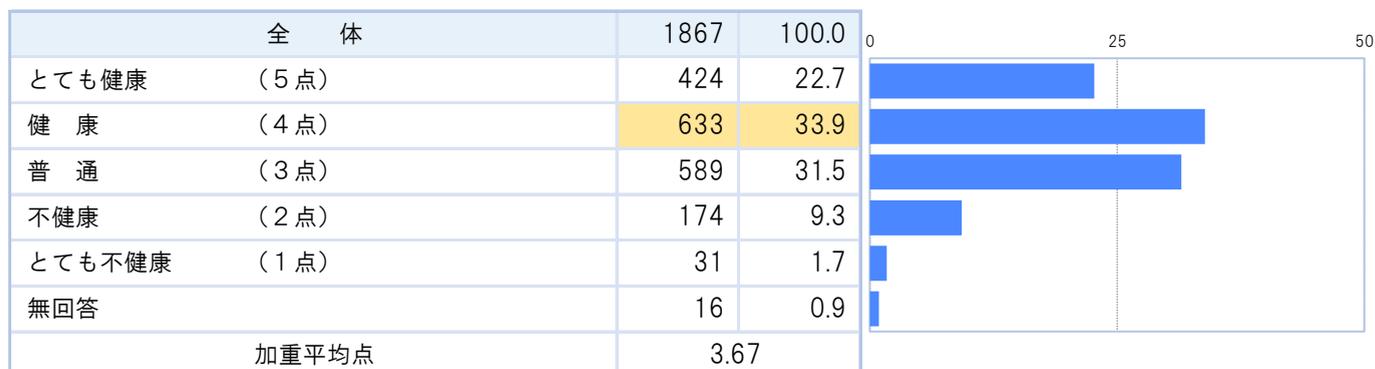
「インターネット」が646件(43.3%)、「友人・知人」が491件(32.9%)、「新聞、雑誌、求人情報誌」が167件(11.2%)の順となっている。「大学」は96件(6.4%)であり、利用頻度は低い。「友人・知人」の具体例として、教員や家族があげられているが、学生の学習時間を確保するためにも、週のアルバイト時間を調整するよう指導することも心掛ける必要がある。



VII. 健康・悩みなどについて

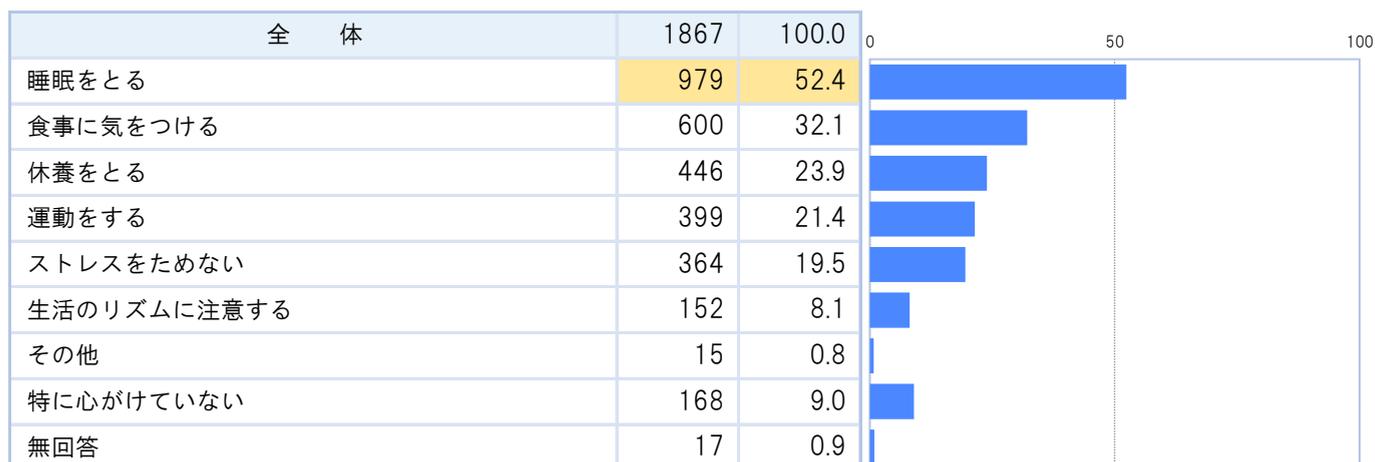
7-1. 自分の健康状況についてどのように認識しているか

自分の健康状況について、「健康」と認識しているものが633件(33.9%)、「とても健康」が424件(22.7%)であり、「普通」の589件(31.5%)まで含めると、9割近くの学生が健康状況に大きな不安を抱えていないといえる。ただ、約1割の「不健康」および「とても不健康」の学生に対する状況把握と適切なケアは求められよう。



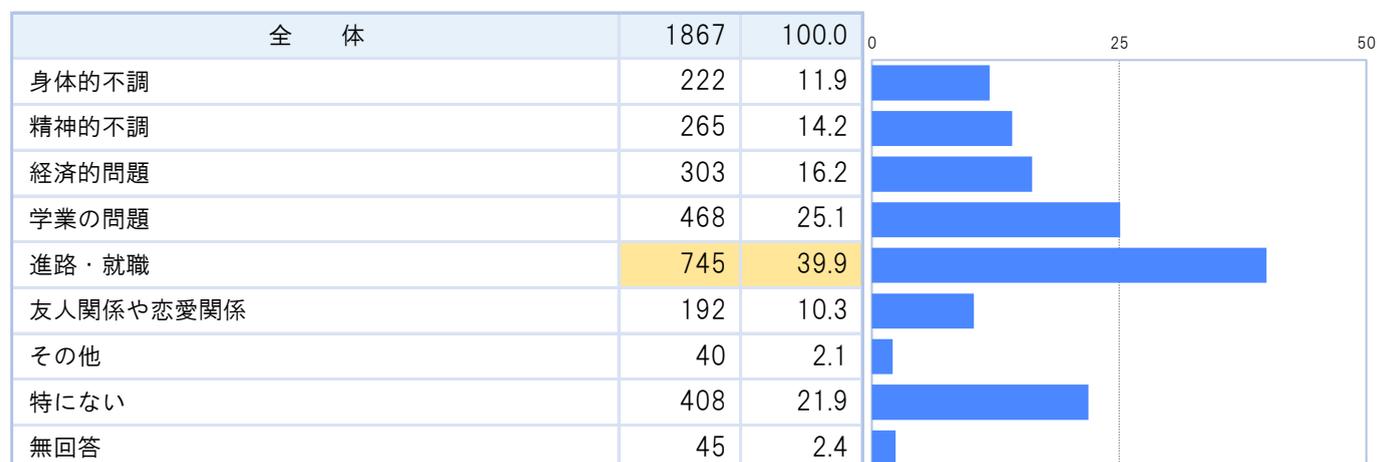
7-2. 健康のために心がけていること〔2つまで回答〕

「睡眠をとる」が979件(回答者数に占める割合・52.4%)であり、半数以上の学生が心がけていた。「食事に気をつける」の600件(同・32.1%)、「休養をとる」の446件(同・23.9%)、「運動をする」の399件(同・21.4%)といったオーソドックスといえる方法の組み合わせで健康管理がおこなわれていると考えられる。一方、「特に心がけていない」が168件(同・9%)あった。



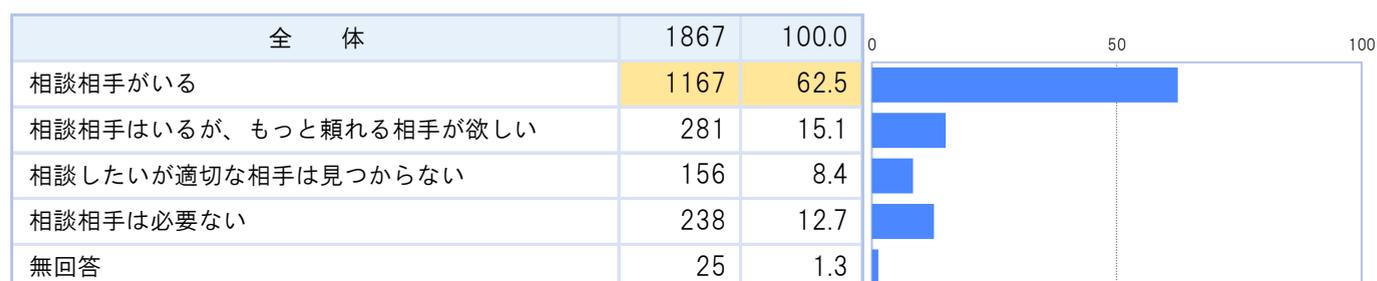
7-3. 現在悩みや不安を抱えているか、また抱えているとすれば、どのような悩みか〔2つまで回答〕

「進路・就職」に関する不安が745件(回答者数に占める割合・39.9%)と最も多くを占めた。それに「学業の問題」の468件(同・25.1%)、経済的問題の303件(同・16.2%)が続いた。また、「身体的不調」を「精神的不調」が上回っており、精神面もあわせたケアが引き続き必要と考えられる。



7-4. 悩みや不安が生じたとき、相談相手がいるか

「相談相手がいる」とした学生が1167件(62.5%)で最も多く、「相談相手は必要ない」とする238件(12.7%)とあわせると、約75%は相談相手に関する問題を有していないことがわかった。一方、「相談したいが適切な相談相手はみつからない」が156件(8.4%)、「相談相手はいるが、もっと頼れる相手が欲しい」が281件(15.1%)と、約24%は相談相手を求めている。



7-5. 制度の利用状況について

保健管理センター」および「学生相談室」については、「利用したことはないが知っていて、必要な際に利用したい」がそれぞれ約40%で最も多かった。

ただ、「知っているが、利用したことはないし、将来的にも利用したいと思わない」もそれぞれ20%程度あり、「知らない」は約30%である。

「学生意見箱」と「なんでも相談室」は「知らない」がそれぞれ60%近くと最も多く、今後の周知が求められる。

	件数	利用したことがある	利用したいが実際には利用していない	も知っていないが、将来的に利用したい	知らない	無回答
①保健管理センターの健康相談	1867 100.0	235 12.6	679 36.4	370 19.8	555 29.7	28 1.5
②学生相談室の学生生活に関する悩みなどの相談	1867 100.0	96 5.1	741 39.7	449 24.0	551 29.5	30 1.6
③学生意見箱	1867 100.0	29 1.6	427 22.9	311 16.7	1071 57.4	29 1.6
④なんでも相談窓口	1867 100.0	26 1.4	433 23.2	299 16.0	1079 57.8	30 1.6

※1「学生意見箱」学生が大学に対する意見・質問等をメールにより伝えることが出来る制度

※2「なんでも相談窓口」各キャンパスに担当者を配置し、学生が直接相談に来たときに対応する窓口

7-6. 大学で加入を義務づけている保険以外に、加入している保険〔いくつでも回答〕

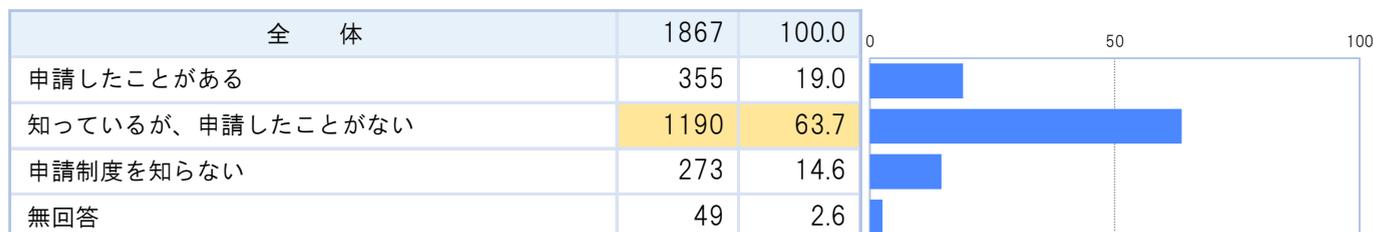
「学生総合共済(生協)」が1219件(回答者数に占める割合・65.5%)と最も多く、「学研災付帯学生生活総合保険」の562件(同・30.1%)が続いた。ただ、「加入していない」が262件(14%)あり、自由回答欄には「わからない・知らない」といった理由がみられた。

全 体	件数	割合	割合
学生総合共済(生協)	1219	65.3	65.3
学研災付帯学生生活総合保険	562	30.1	30.1
スポーツ安全保険	336	18.0	18.0
その他	156	8.4	8.4
加入していない	262	14.0	14.0
無回答	66	3.5	3.5

VIII. 大学の経済支援について

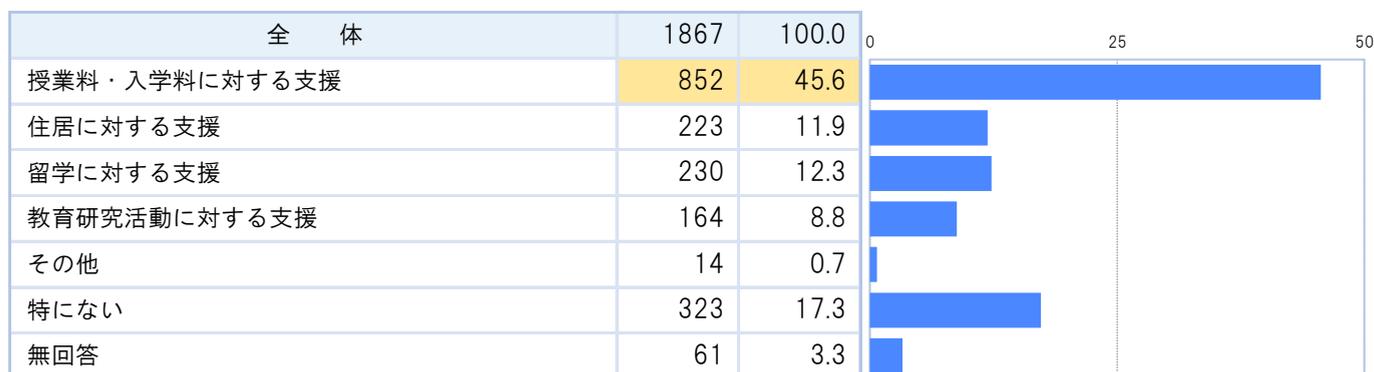
8-1. 大学で実施している「授業料免除」に申請したことがあるか

「知っているが、申請したことがない」が1190件(63.7%)、「申請したことがある」が355件(19.0%)、「申請制度を知らない」が273件(14.6%)の順となっている。
 平成27年度調査結果と比較して、「申請したことがある学生」は2.8%減少し、「知っているが申請したことがない学生」は2.5%増加している。
 また「制度を知らない学生」は1.5%減少している。全体の傾向としては平成27年度と変わらない。



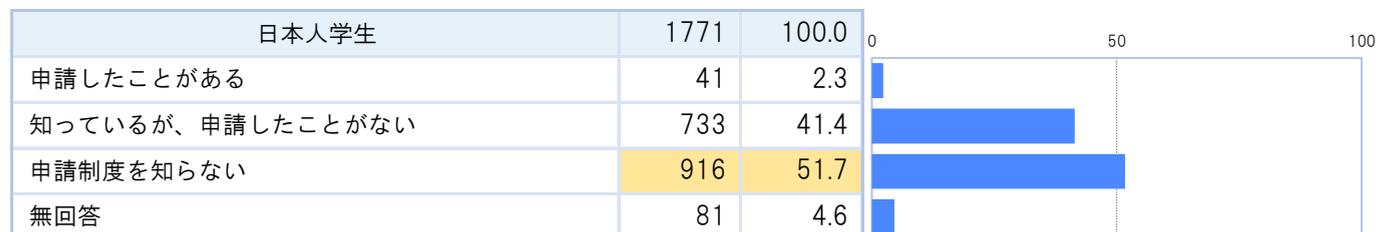
8-2. どのような経済支援を望むか

「授業料・入学料に対する支援」が852件(45.6%)、「特にない」が323件(17.3%)、「留学に対する支援」が230件(12.3%)の順となっている。
 「授業料・入学料に対する支援」が45.6%と圧倒的に多い。次いで、「住居・留学に対する支援」を希望する声がそれぞれ約12%ある。「教育研究活動に対する支援」の希望は8.8%である。自由記述での意見は多岐にわたるが、その中でも「成績優秀者に対する支援」の声があり、そのうちの一つには「親の収入に関係なく」という意見がある。学部学科が多いため、ルール化は厳しいものの、例えば各学科で2年次以降の成績優秀者を選定し、奨学金に近いものを付与するなど、大学の予算に依存するが学生のレベルの底上げにもつながるような案を考えてもよいかもしれない(ただし、学業優秀学生奨学金との違いは何か、学業優秀学生奨学金の枠組みを改良して対応するかなど検討の余地は多分にあり)。



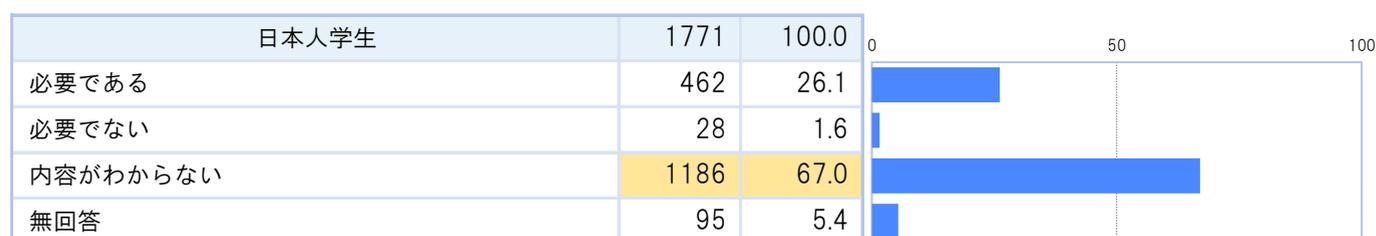
8-3. 「東京海洋大学経済支援給付制度」に申請したことがあるか

「申請制度を知らない」が916件(51.7%)、「知っているが、申請したことがない」が733件(41.4%)、「申請したことがある」が41件(2.3%)の順となっている。
 「申請したことがある学生」は平成27年度では2.1%、今回は2.3%とほぼ変わらない。「知っているが申請したことがない学生」が41.4%と申請条件に合致しない学生が多い。
 一方で、本制度自体を知らない学生が51.7%おり、平成27年度より4%微増している。問64の「内容がわからない学生」が67%もいることから、今後も大学側からの周知の徹底が必要と見受けられる。



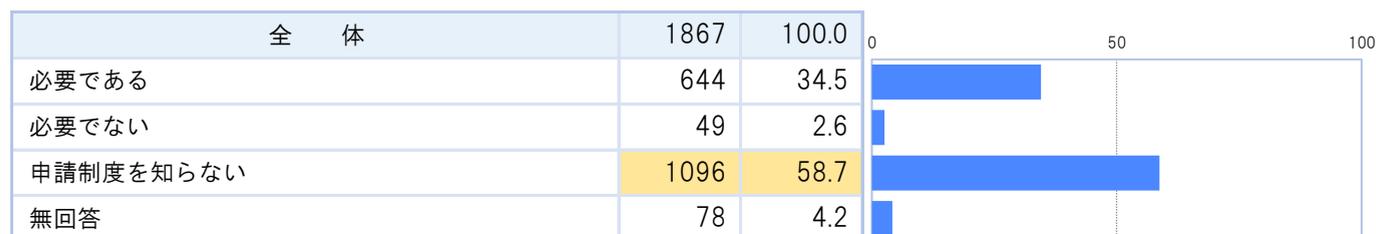
8-4. 「東京海洋大学経済支援給付制度」は必要だと思うか

「内容がわからない」が1186件(67.0%)、「必要である」が462件(26.1%)、「必要でない」が28件(1.6%)の順となっている。
 大学の対応については問63で記述したとおりである。



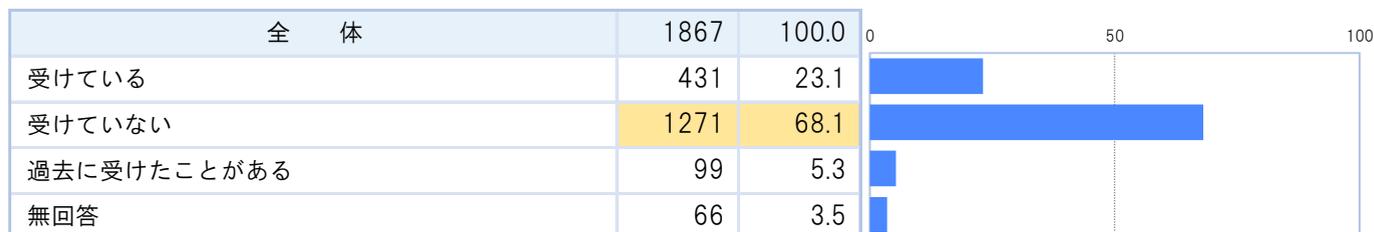
8-5. 「東京海洋大学学業優秀学生奨学金」は必要だと思うか

「申請制度を知らない」が1096件(58.7%)、「必要である」が644件(34.5%)、「必要でない」が49件(2.6%)の順となっている。
 「申請制度を知らない学生」が58.7%おり、これについても大学側が学生への周知を徹底する必要がある。
 自由記述では、優秀かどうかの判定方法への不満が散見される。



8-6. 日本学生支援機構または他の団体から奨学金を受けているか

「受けていない」が1271件(68.1%)、「受けている」が431件(23.1%)、「過去に受けたことがある」が99件(5.3%)の順となっている。
平成27年度調査結果と比較して有意な差はない。



8-7. 受けている奨学金

「日本学生支援機構第1種奨学金」が231件(53.6%)、「日本学生支援機構第2種奨学金」が131件(30.4%)、「公的機関等の外国人留学生対象の奨学金」が45件(10.4%)の順となっている。
平成27年度・平成30年度ともに「日本学生支援機構の第1種・第2種」で80%以上を占める。
「民間奨学金団体・地方公共団体の奨学金」は、5.5%(H27)から7.9%(H30)に増加した。
また「公的機関等の外国人留学生対象の奨学金」についても、6.6%(H27)から10.4%(H30)に増加した。



8-8. 奨学金の月額

「5~10万円未満」が202件(46.9%)、「5万円未満」が154件(35.7%)、「10万円以上」が62件(14.4%)の順となっている。

平成27年度調査結果と比較して有意な差はない。

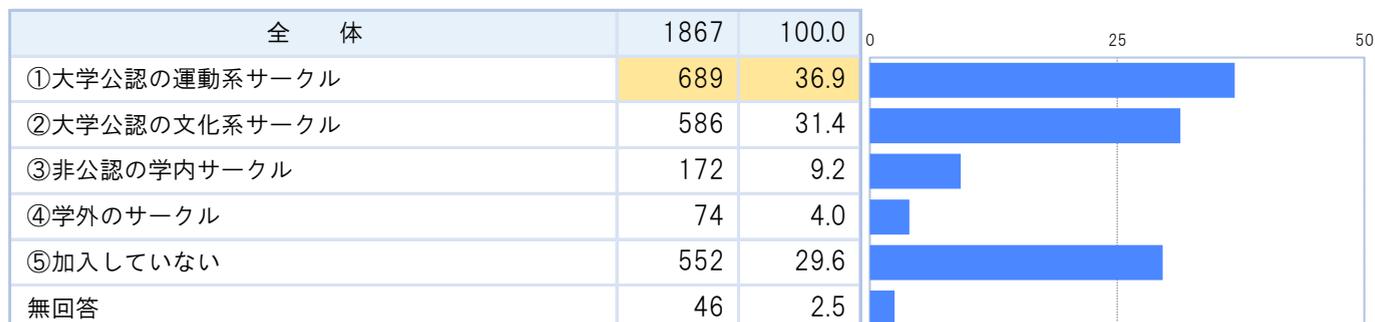
5万未満・10万円未満・10万円以上という違いについては、受領する学年・国籍で異なる。修学支援調査ということなので、月々の奨学金を受領しているながら、あるアルバイトをしているのか、なぜアルバイトをしなければならないのか(生活が苦しいからなのか、遊興費がほしいからなのかなど)を調査する必要がある(→学業に専念できるのかどうかの確認)と考える。



IX. 課外活動について

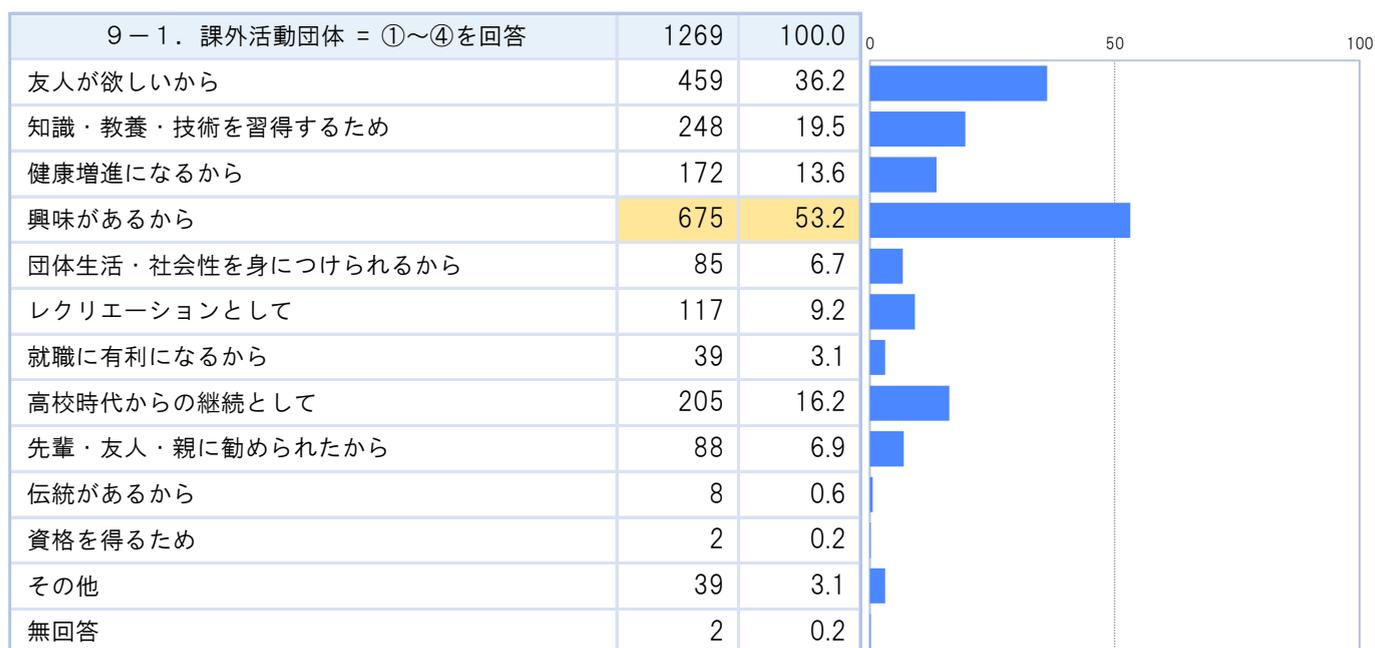
9-1. どのような課外活動団体に所属しているか〔2つまで回答〕

「大学公認の運動系サークル」が689件(36.9%)、「大学公認の文化系サークル」が586件(31.4%)、「加入していない」が552件(29.6%)の順となっている。



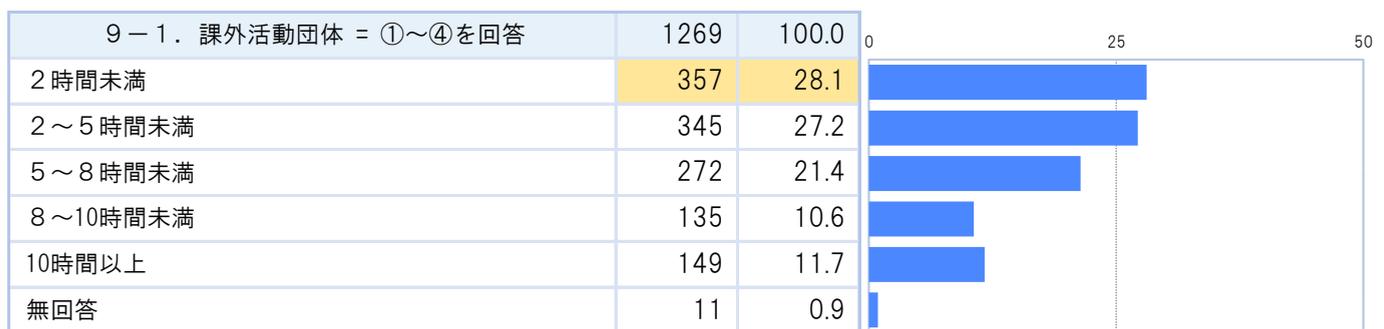
9-2. サークル等加入の理由・動機〔2つまで回答〕

「興味があるから」が675件(53.2%)、「友人が欲しいから」が459件(36.2%)、「知識・教養・技術を習得するため」が248件(19.5%)の順となっている。
その他においては、海洋大ならではの活動ができるからといった理由が挙げられていた。



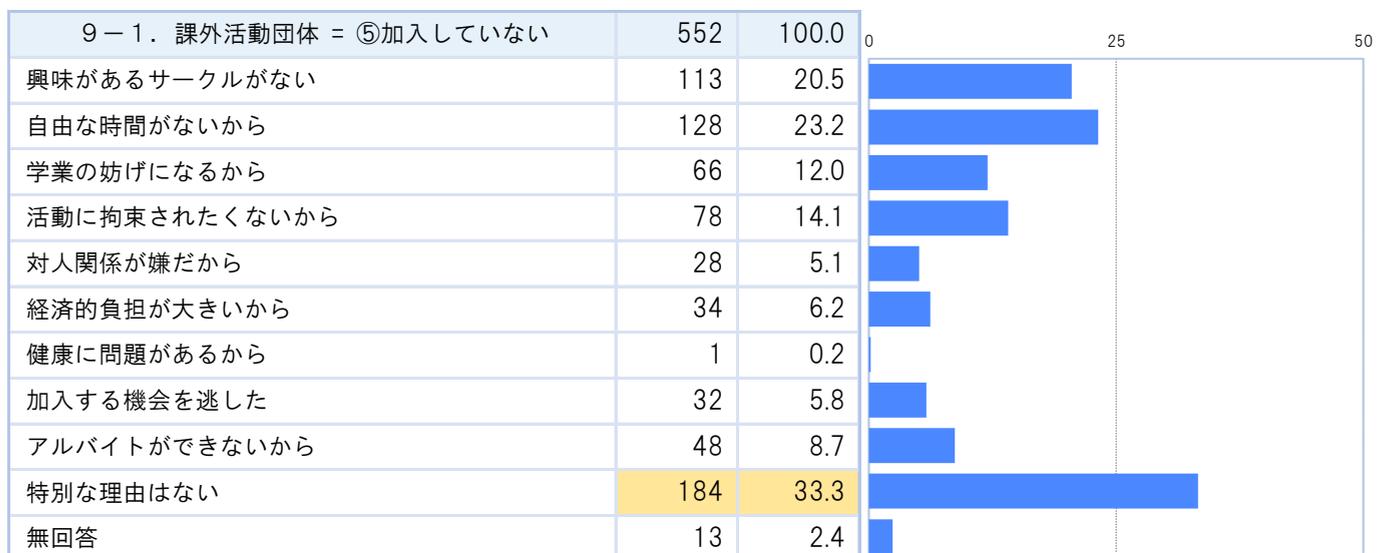
9-3. サークル等の1週間あたりの活動時間

「2時間未満」が357件(28.1%)、「2～5時間未満」が345件(27.2%)、「5～8時間未満」が272件(21.4%)の順となっている。



9-4. サークル等に参加していない理由〔2つまで回答〕

「特別な理由はない」が184件(33.3%)、「自由な時間がないから」が128件(23.2%)、「興味があるサークルがない」が113件(20.5%)の順となっている。



X. 進路・就職について

10-1. 卒業後どのような進路を希望するか

「フルタイムの就職・就業」が1151件(61.6%)、「進学(大学院・専門学校・留学など)が461件(24.7%)、「まだ考えていない」が165件(8.8%)の順になっている。

問9の「学部卒業後の大学院への進学希望又は就職希望」においては、「学部卒業後の就職希望」が609件(45.3%)、「本学大学院への進学希望」が402件(29.9%)となっていた。また、「その他」が187件(13.9%)であったが、具体例として、乗船実習科、水産専攻科への進学希望が多かった。

したがって、問73において、「フルタイムでの就職・就業」が増えているのは、大学院学・乗船実習科・水産専攻科の就職希望が上乘せされたことによるものと考えられる。

全 体	1867	100.0	0	50	100
フルタイムの就職・就業	1151	61.6			
パートタイムの就業（フリーターなど）	4	0.2			
専業主婦や専業主夫	10	0.5			
進学（大学院・専門学校・留学など）	461	24.7			
その他	30	1.6			
まだ考えていない	165	8.8			
無回答	46	2.5			

10-2. 将来どのような業種への就職を希望するか〔いくつでも回答〕

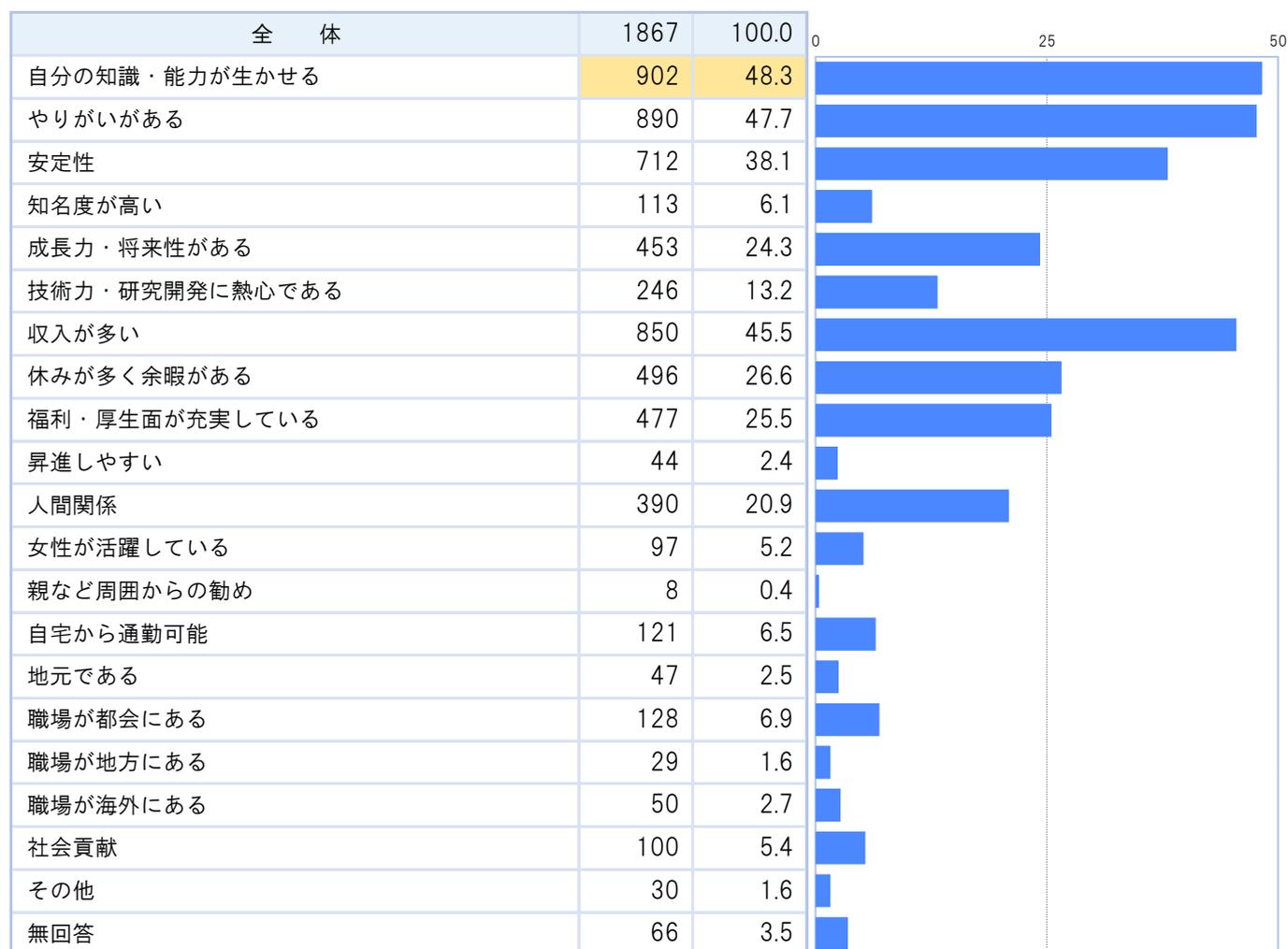
「製造業」が324件(17.4%)、「学術研究、専門・技術サービス業」が294件(15.7%)、「海上職員・船舶職員」が237件(12.8%)、「公務員」が236件(12.6%)、「漁業・養殖業」が160件(8.6%)であり、専門性の高い海洋・水産・海事関連の職種を希望する者が多い。

全 体	1867	100.0	0
農業・林業	69	3.7	
漁業・養殖業	160	8.6	
海上職員・船舶職員	237	12.7	
建設業	22	1.2	
製造業	324	17.4	
電気・ガス・水道業	27	1.4	
情報通信業	101	5.4	
運輸業、郵便業	97	5.2	
卸売業、小売業	41	2.2	
金融業、保険業	18	1.0	
鉱 業	8	0.4	
学術研究、専門・技術サービス業	294	15.7	
宿泊業、飲食サービス業	18	1.0	
生活関係サービス業、娯楽業	22	1.2	
教育・学習支援業	78	4.2	
医療、福祉	10	0.5	
複合サービス事業	12	0.6	
サービス業	61	3.3	
不動産業、物品賃貸	2	0.1	
公務員	236	12.6	
その他	95	5.1	
無回答	86	4.6	

25

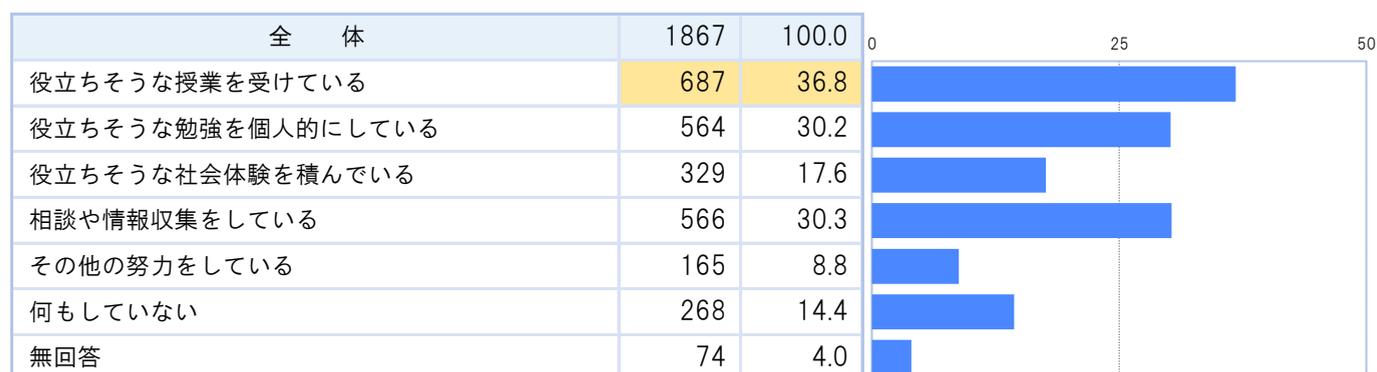
10-3. 就職先を選ぶ場合、何を重視するか〔4つまで回答〕

「自分の知識が生かせる」が902件(48.3%)、「やりがいがある」が890件(47.7%)、「収入が多い」が850件(45.5%)、「安定性」が712件(38.1%)であり、海洋大で習得した専門知識を発揮できるようなやりがいのある仕事を希望するものが多いことに加え、経済的な安定性を求める傾向がある。



10-4. 希望する進路をかなえるためにしていること〔2つまで回答〕

「役立ちそうな授業を受けている」が687件(36.8%)、「相談や情報収集をしている」が566件(30.3%)、「役立ちそうな勉強を個人的にしている」が564件(30.2%)の順である。「何もしていない」が268件(14.4%)であり、多くの学生が希望する進路に向けて努力している様子が見えてくる。



10-5. 就職担当窓口を利用しているか、また、そこからの情報提供は十分なものが

「利用していない」が819件(43.9%)と「就職担当窓口を知らなかった」が631件(33.8%)であり、「利用している」(内容に満足14.5%、内容に不満3.7%)を大きく上回っていた。
利用していない理由の多くは、就職活動を始めていないことから、必要性を感じていないというものであった。

全 体	1867	100.0	0	25	50
利用しており、内容は十分である	271	14.5			
利用しているが、内容は不十分であった	70	3.7			
就職担当窓口を知らなかった	631	33.8			
利用していない	819	43.9			
無回答	76	4.1			

10-6. 大学外で資格取得等のために学校に通ったことがあるか(ダブルスクール)

「通ったことがない」が1619件(86.7%)で、「通ったことがある」73件(3.9%)、「通う予定がある」57件(3.1%)、「通っている」41件(2.2%)を大きく上回っている。

全 体	1867	100.0	0	50	100
通っている	41	2.2			
通う予定がある	57	3.1			
通ったことがある	73	3.9			
通ったことはない	1619	86.7			
無回答	77	4.1			

XI. 大学への要望について

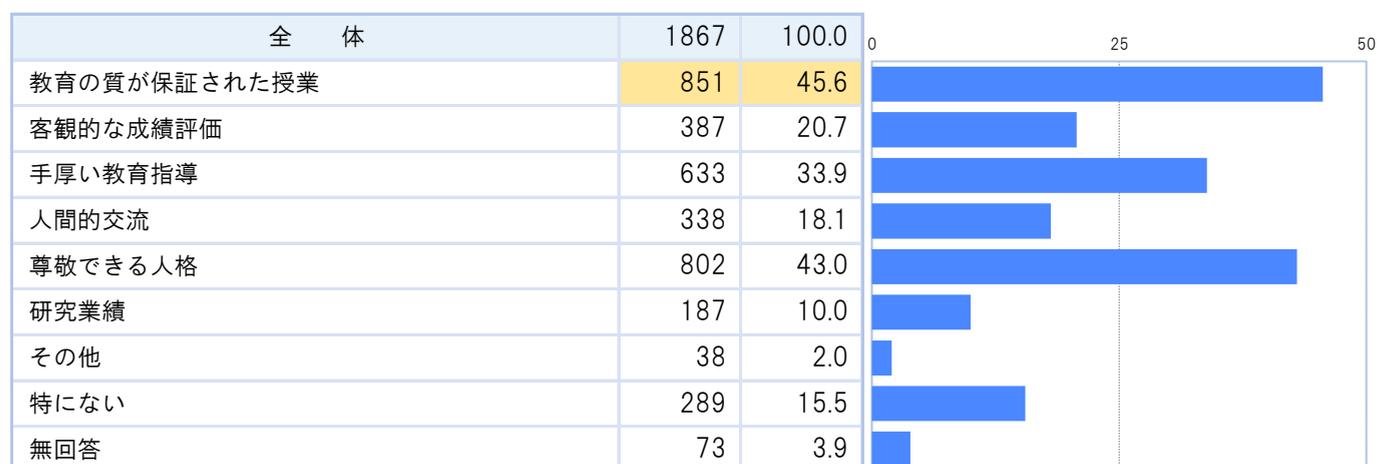
11-1. 大学にどのような要望や意見があるか〔3つまで回答〕

「教室等の施設・設備の充実」が751件(40.2%)、「カリキュラムの改善・充実」が553件(29.6%)、「課外活動関係の設備・施設の充実」が381件(20.4%)の順となっている。

全 体	1867	100.0	0	25	50
カリキュラムの改善・充実	553	29.6			
著名な教員の採用	122	6.5			
教室等の施設・設備の充実	751	40.2			
福利・厚生関係の施設・設備の充実	253	13.6			
課外活動関係の設備・施設の充実	381	20.4			
奨学金など経済的援助の充実	330	17.7			
就職支援の充実	316	16.9			
学生サービスの窓口業務の改善・充実	345	18.5			
学生のメンタルケアの充実	67	3.6			
その他	106	5.7			
特にない	304	16.3			
無回答	74	4.0			

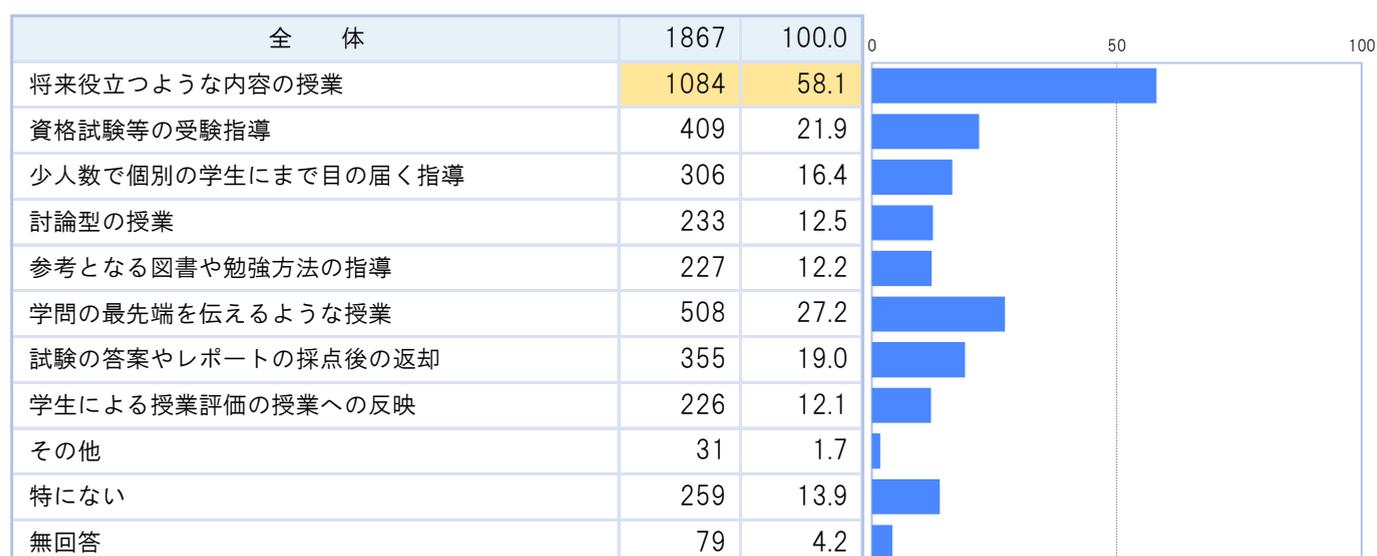
11-2. 大学の教員に対して望むこと〔3つまで回答〕

「教育の質が保証された授業」が851件(45.6%)、「尊敬できる人格」が802件(43.0%)、「手厚い教育指導」が633件(33.9%)の順となっている。



11-3. 大学の授業に対してどのような要望や意見があるか〔3つまで回答〕

「将来役立つような内容の授業」が1084件(58.1%)、「学問の最先端を伝えるような授業」が508件(27.2%)、「資格試験等の受験指導」が409件(21.9%)の順となっている。



編集後記

修学支援調査は、本学学生の皆さんに、有益で快適な学生生活を送ってもらうために、学生の皆さんの意見を聞いて、本学の修学環境や学生支援の充実および改善を図る目的で実施されています。

今回の修学支援調査の内容については、昨年度に計画・決定され、今年度平成30年4月～6月にかけてアンケート調査が実施されました。アンケートの内容は、学生の皆さんが、いまだどのような生活を送っているのか、修学環境や課外活動の状況など、多岐にわたり、80項目以上の設問への回答をお願いいたしました。

前回の修学支援調査は平成27年6月に実施されましたが、今回の調査では対象を学部と大学院に加え、乗船実習科並びに水産専攻科にも拡大しました。また、調査時期を4月～6月としたことから、前回に比較してより多くの調査票を回収することができました。さらに、英語バージョンの調査票も作成・配布したことから、多くの留学生の皆さんからも貴重なご意見をいただくことができました。

このように今回の修学支援調査では、本学学生の皆さんから、幅広く意見を集約することができました。今回のアンケート調査結果および自由記述でいただいた種々のご意見は、本学の修学環境や学生支援の充実および改善を図るための有益な情報となりました。今後、関連部局を中心として具体的な改善策等が整理・検討され、実行に移されることとなります。

最後に、調査にご協力いただいた学生の皆さんおよび教職員の皆さんに心よりお礼申し上げます。

平成31年1月

学生支援委員会

学生広報・修学支援調査小委員会主査 濱崎 活幸

委員会の構成メンバー

平成29年度学生広報・修学支援調査小委員会

(主査) 濱崎活幸、盛田元彰、亀谷茂樹、中原尚知、大高弘士

平成30年度学生広報・修学支援調査小委員会

(主査) 濱崎活幸、井原智則、溝端浩平、中原尚知、大高弘士